

I 全般的事項

1. 臨床実習の意義

- 1) 臨床実習は、患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行うことで、医療人としての心を養うことができる。
- 2) 臨床実習は、歯科診療の実践を通じて、基礎系・臨床系を問わず座学で学んだ各々の教科（学問）を有益的に結びつけ、歯科医学をさらに深く理解することができる。
- 3) 臨床実習は、歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、歯科医療の臨床体系を理解することができる。

2. 臨床実習の心構え

- 1) 臨床実習での歯科診療に同意された患者に対しては、最大限の感謝の気持ちを持つこと。臨床実習における歯科診療は、たとえ経験のない未熟な学生によるものであっても臨床的に問題のない水準でなければならない。学生は技術的な問題点をカバーするために、あらゆる側面から真摯に努力すること。
- 2) 役職に関係なく、すべての病院職員（教員、看護師、コデンタルスタッフ、事務員、医療クラーク、清掃スタッフ等）のおかげで実習が行えていることに対して感謝し、すべての人に日々気持ちよく挨拶をすること。
- 3) 診療準備*を行わずに臨床実習に臨むことは決して許されない。診療準備が不充分にならないように、診療前日までに予め指導教員とよく相談すること。
*診療準備とは、診療に必要な器具・器材および資料等を準備するのみではない。前回あるいは過去の治療内容を整理し、次回の診療の具体的な内容について、実際の診療を想定（シミュレーション）して十分に考えておくことである。
- 4) 指導の方法は各指導教員に一任されており、教員によって細微な点で異なることがある。したがって各実習に際しては、患者の担当医である教員の指示に従うこと。ただし、教員の指示に疑義がある場合は、臨床実習教育支援センター長（もしくは同副センター長）に申し出ること。

3. 患者に対する態度・姿勢

- 1) 患者に対しては言葉遣いに十分注意し、親切な態度で接すること。
- 2) 来院日時の約束は指導教員の許可を得た上で行うこと。患者に電話連絡する場合は、院内の電話機を使用すること。
- 3) 患者の秘密を守ること。病名、症状等についての発言にも十分注意すること。
- 4) 患者の転帰は、自分で判断することなく指導教員の指示に従うこと。
- 5) 診療は指導教員の監督・指導の下で行うこと（法令遵守）。また、徳島大学病院以外で診療行為（技工を含む）を行ってはならない（学外臨床実習は、この限りではない）。

4. 服 裝

- 1) 診療室では、医療人として相応しい身だしなみになるように心懸けなければならない。清潔な白衣、マスクを着用し、所定の名札を決められた場所につけること。なお、技工室で使用する白衣とは区別すること。（原則ケーシー型白衣が望ましいが、病院指定のジャケット型白衣を着用する場合はその中に必ずケーシー型白衣を着用すること。）
- 2) 手指、頭髪等（髪は生やさない）はもちろん服装も常に清潔にし、他人に不快感を与えないよう心がけること。
- 3) アクセサリー（ピアス、ネックレス、カラーコンタクト等）は身につけないこと。
- 4) 白衣を着用したままで、キャンパス外に出てはいけない。
- 5) 手術室に入室の際は、必ずゴーグルを着用すること。診療時においても、飛沫感染の可能性がある場合には、ゴーグルを着用すること。
- 6) ヒールの高い靴及びサンダルは履かないこと。くるぶしが露出する靴下は着用しないこと。

*次頁に徳島大学病院にて規定する「身だしなみの注意点」を抜粋するので遵守すること。

徳島大学病院が規定する「身だしなみの注意点」

頭 髪	派手なヘアスタイルでなく、清潔感がある 肩にのる長さになれば束ねる 香水・整髪料は極端に臭わないものにする
服 装	汚れがなく、清潔感がある スカート丈は膝が隠れる長さにする 白衣の前ボタンは全てかける
シ ュ ー ズ	汚れがなく、清潔感がある 音のしない靴タイプのものとし、サンダルを履かない 靴の踵を踏みつぶさない
爪	短く切りそろえ、清潔感がある マニキュアは透明、または薄いピンクとする
化 粧	明るく、健康的で清潔感がある
アクセサリー	基本的には、身につけない（ピアス、ネックレス等）

5. 診療室での態度

- 1) 診療室では、日々、円滑な歯科診療が行えるように、他の診療スタッフらと協力すること。
- 2) 患者や診療スタッフに不快感を与えるような会話は慎むこと。
- 3) スタンダードプレコーション（標準感染予防対策）の概念を熟知して診療を行うこと。自ら感染の媒体にならないように、清潔・不潔域を明確に区別してあらゆる診療行為を行うこと。
- 4) 診療室での偶発事故（予定外事象を含む）は、どんな些細なことでも速やかに指導教員に報告し、対応について指示を受けること。
- 5) 患者ごとに歯科診療の内容は異なるので、必然的に実習内容は学生各自で異なる。学生にとってミニマムリクワイアメントの達成は重要な臨床実習修了要件であるが、そのことは患者には全く関係がないことである。したがって、患者に不利益をもたらす患者不在の診療行為を決して行わないこと。

6. 出 席

『Ⅲ臨床予備実習』、『Ⅳ臨床実習』にて個別に定める。ただし、院内での感染防止の観点から、インフルエンザ様症状のある場合は、原則として臨床実習には参加しない。すなわち、原因に関わらず、37.5度以上の発熱時は、学務係および担当教員に電話連絡して欠席すること。とくに担当患者の診療予約がある場合には、担当教員に対応を相談すること。

病気の場合は、すみやかに病院で診察を受けて学務係へ報告し、その後の臨床実習への復帰時期について相談すること。（VIII「蔵本地区における学生の感染症に対する対応について」参照のこと）

7. 器械、器具及び材料について

- 1) 器械、器具について
実習に必要な器械、器具は貸与する。貸与された器械、器具には管理責任をもつこと。故意または過失により器械、器具等を破損もしくは紛失した時は、責任を持って修理又は補充すること。
- 2) 各種材料について
実習に必要な歯科材料等は効率的に使用し、節約を図ること。

8. 実習室及び学生控室

- 1) 常に整理整頓を心懸けること。
- 2) 毎日、実習終了後に清掃を行うこと。

9. 個人情報保護について

- 1) 臨床実習で知り得たすべての患者の個人情報は、決して他者・外部に漏洩することないように細心の注意をもって取り扱うこと。
- 2) 実習帳などへの患者の個人情報に関する記載にあたっては、個人情報保護の観点から十分配慮し、指導教員の指示の下、臨床実習遂行に不可欠な事項のみの記載とすること。（個人情報のメモやコピーは、むやみに行わず、責任を持って管理する。）
- 3) 個人情報が記載された実習帳・検印帳は各自管理を徹底し、病院外・学部外へ持ち出さないこと。（実習帳・検印帳は臨床実習終了後、すべて回収する。）

個人情報の定義

「個人情報」とは、生存する個人に関する情報で、当該情報に含まれる氏名、生年月日、その他記述等により、特定の個人を識別できるものをいう。[患者住所、氏名、生年月日、年齢、性別、病名、症状（精神疾患を含む）、病歴、服薬指導回数など]

なお、病院の場合には死亡後の情報も含まれる。

10. 臨床実習参加前の事前準備

- 1) 保険加入について
大学生協の「学生賠償保険」もしくはそれに相当する賠償保険に、必ず、加入しておくこと。
- 2) ワクチン接種について
水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎およびHBVの抗体陰性者は、必ず、当該ワクチンを接種しておくこと。

II 臨床実習概要

1. 臨床実習全般の一般目標と到達目標

臨床実習 Clinical Training

臨床予備実習（固定実習／チュートリアル授業／学外体験実習／関連講義）

臨床実習（歯科臨床実習／固定実習／ローテイト実習／学外臨床実習）

【担当分野及び診療科（部）】

担当分野

診療科（部）

責任教員

予防歯科学	歯科・予防歯科	伊藤教授
歯科保存学第一	歯科・むし歯科（第一保存科）	保坂教授
歯科保存学第二	歯科・歯周病科（第二保存科）	湯本教授
歯科補綴学第一	歯科・そしゃく科（第一補綴科）	市川教授
歯科補綴学第二	歯科・かみあわせ補綴科（第二補綴科）	松香教授
口腔内科学	歯科口腔外科（口腔内科）	
口腔外科学	歯科口腔外科（口腔外科）	宮本教授
歯科矯正学	矯正歯科	田中教授
小児歯科学	小児歯科	岩崎教授
歯科放射線学	歯科・歯科放射線科	
歯科麻酔学	歯科口腔外科（歯科麻酔科）	川人教授
	総合歯科診療部	
	高次歯科診療部	田中教授

【一般目標】

歯科疾患を抱える患者を全人的・全身的に捉える態度を養い、卒後臨床研修を行うために必要な基本的歯科診療能力を修得するとともに、口腔保健増進の重要性を深く認識することに主眼を置くこととする。

- 1) 歯科医療と口腔保健増進の意義と重要性を理解する。
- 2) 患者とその家族・医師・歯科医師並びにコ・デンタルスタッフ（歯科衛生士、歯科技工士、看護師等）とのコミュニケーションの基本を身につける。
- 3) 一般歯科診療の基本的原理を理解し、基本的臨床能力を修得する。
- 4) 歯科の主要疾患と主要症候について、診療の進め方の基本を理解する。
- 5) 高度の専門的な診療を要する歯科疾患について、その診療の進め方、専門診療機関・施設への相談・紹介の適応と時期等についての基本を身につける。
- 6) 患者の生命にかかわったり、重篤な後遺症をきたす恐れのある歯科疾患について、症状の早期発見と初期対応の基本を学ぶ。
- 7) 自己の診療能力の限界を知り、常に万全を期すために他の専門の歯科医師（医師）等に相談する態度・習慣を身につける。
- 8) 歯科診療に関する問題を発見して自ら解決する態度を培う。
- 9) 卒後臨床研修を遅滞なく開始できるだけの基本的知識と技能を身につける。

【到達目標】

- 1) 患者を全人的・全身的に捉え、患者中心の立場から適切な診断と診療計画を立案できる。
- 2) 患者の社会的・心理的背景を考慮しつつ、正確かつ必要十分な医療面接ができる。
- 3) 的確な診察・検査で得られた所見を整理して診療記録に正しく記載できる。
- 4) 歯科診療に係わる基本的な診察・検査を行うことができる。
- 5) 診療記録に記載されている検査所見を理解し、その意味を説明できる。
- 6) 臨床経過等の記録から、その意味を理解し、説明できる。
- 7) 画像検査、機能系検査、血液検査、生化学検査、微生物学検査等に関する基礎的事項とその限界について説明し、所見を解釈し、診断を行うことができる。
- 8) 指導医の直接の指導・監督のもとに、歯科疾患の基本的な予防処置、口腔保健指導及び健康相談を行うことができる。
- 9) 指導医の直接の指導・監督のもとに、主要歯科疾患の基本的診療を行うことができる。
- 10) 指導医の直接の指導・監督のもとに、蘇生法を含め、診療時における救急処置を行うことができる。
- 11) 歯科診療における術前・術中・術後の管理及び小児・成人・高齢者の全身管理の基本を説明できる。

2. 平成28年度版 歯学教育モデル・コア・カリキュラム：実習項目番号相対表

G の項目		水準1：指導者のもと実践する自験を求めるもの	項目番号
1 診療の基本	臨床診断・治療計画	診断と治療計画の立案（咬合が安定している）	水1-1
	病態写真・模型	口腔・顔面の写真撮影	水1-2
		研究用模型の製作	水1-3
		診療録の作成	水1-4
	診療録・処方箋	処方箋の作成	水1-5
		技工指示書の作成	水1-6
2 基本的診察法	医療面接	医療面接（成人）	水1-7
	バイタルサイン	血圧・脈拍・呼吸・体温の測定	水1-8
	頭頸部・口腔の診察	頭頸部	水1-9
		口腔の視診	水1-10
		触診	水1-11
		打診	水1-12
		聴診	水1-13
	画像検査	口内法エックス線撮影	水1-14
	臨床検査	温度診	水1-15
		電気診	水1-16
		透照診	水1-17
		根管長測定	水1-18
	歯周組織検査（歯の動搖度検査、歯周ポケット検査、プラーク指數測定、歯石指數測定、出血指數測定）		水1-19
3 基本的臨床技能	共通	咬合検査	水1-20
		手洗い（衛生的・手術時）	水1-21
		滅菌手袋の装着	水1-22
		ガウンの装着	水1-23
		局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）	水1-24
		中間技工物の製作（咬合床、トレー他）	水1-25
	口腔外科系	ポートフォリオの作成	水1-26
		永久歯の単純抜歯	水1-27
		コンポジットレジン修復（単純窩洞）	水1-28
	保存系	メインテナンス	水1-29
		象牙質知覚過敏処置	水1-30
		ラバーダム防湿	水1-31
		感染根管治療（根管充填を含む：単根歯）	水1-32
		歯周基本治療（プラークコントロール指導）	水1-33
		歯周基本治療（スケーリング・ルートプレーニング）	水1-34
		メインテナンス	水1-35
	補綴・リハビリ系	クラウンによる補綴治療（支台歯形成、但し支台築造を除く）	水1-36
		プロビジョナルレストレーション	水1-37
		メインテナンス	水1-38
		可撤性義歯による簡単な欠損補綴治療	水1-39
		可撤性義歯の簡単な修理・調整	水1-40
		メインテナンス	水1-41
	予防・指導系	口腔清掃	水1-42
		セルフケアに対する動機づけ	水1-43
		口腔衛生指導	水1-44
	小児・矯正系	診断と治療計画の立案（咬合が安定している）	水1-45
		口腔・顔面の写真撮影	水1-46
		研究用模型の製作	水1-47
		診療録の作成	水1-48
		処方箋の作成	水1-49
		技工指示書の作成	水1-50
		口腔清掃	水1-51
		セルフケアに対する動機づけ	水1-52
		口腔衛生指導	水1-53
4 チーム医療・地域医療		地域包括ケアシステムの体験	水1-54

G の項目		水準 2 : 指導者のものと実践が望まれる (自験不可の場合はシミュレーション等で補完する)	項目番号
1 診療の基本	臨床診断・治療計画	診断と治療計画の立案 (咬合を安定させる処置が必要である)	水2-1
2 基本的診察法	医療面接	医療面接 (高齢者)	水2-2
	画像検査	パノラマエックス線撮影	水2-3
	臨床検査	う蝕リスク検査	水2-4
		根管内細菌培養検査	水2-5
		咀嚼能率検査	水2-6
3 基本的臨床技能	共通	局所麻酔 (伝達麻酔)	水2-7
		症例報告資料の作成と実施	水2-8
	口腔外科系	小膿瘍切開	水2-9
		縫合	水2-10
		抜糸	水2-11
	保存系	コンポジットレジン修復 (複雑窩洞)	水2-12
		補修修復	水2-13
		メタルインレー修復 (複雑窩洞)	水2-14
		グラスアイオノマーセメント修復	水2-15
		覆髓法 (直接)	水2-16
		覆髓法 (間接)	水2-17
		暫間的間接覆髓法	水2-18
		歯髓鎮痛消炎療法	水2-19
		抜髓法	水2-20
		感染根管治療 (根管充填を含む: 複根歯)	水2-21
		歯周基本治療 (咬合調整)	水2-22
		暫間固定 (簡単なもの)	水2-23
	補綴・リハビリ系	支台築造 (メタルポストコア)	水2-24
		支台築造 (レジンポストコア)	水2-25
		支台築造 (ファイバーポストコア)	水2-26
		平行関係に問題のないブリッジの支台歯形成と補綴治療	水2-27
		可撤性補綴装置による欠損補綴治療	水2-28
		補綴装置破損の修理・調整	水2-29
		メインテナンス	水2-30
4 チーム医療・地域医療	予防・指導系	フッ化物塗布	水2-31
		予防填塞	水2-32
		食事指導	水2-33
		食育指導	水2-34
		高齢者に対する栄養指導	水2-35
		生活習慣に関する指導	水2-36
		禁煙指導・支援	水2-37
4 チーム医療・地域医療	小児・矯正系	模型分析	水2-38
		頭部エックス線規格写真分析	水2-39
		診断	水2-40
		治療計画の立案	水2-41
	社会福祉施設等での歯科保健指導		水2-42
	地域歯科保健活動		水2-43

G の項目		水準3：指導者の介助をする	項目番号
1 診療の基本	診療録・処方箋	診療情報提供書（医科診療所・病院・病院歯科・施設宛ての等）の作成	水3-1
2 基本的診察法	医療面接	医療面接（小児・障害者等）	水3-2
	画像検査	口外法エックス線撮影	水3-3
		頭部エックス線規格撮影	水3-4
		歯科用CBCT	水3-5
	臨床検査	塗抹検査	水3-6
		唾液分泌能検査	水3-7
		頸口腔機能検査	水3-8
		舌圧検査	水3-9
3 基本的臨床技能	共通	精神鎮静法	水3-10
		周術期管理	水3-11
	口腔外科系	永久歯の複雑抜歯	水3-12
		小手術（埋伏歯の抜歯、歯根端切除術 他）	水3-13
	保存系	セラミックインレー修復	水3-14
		レジンインレー修復	水3-15
		ラミネートベニア修復	水3-16
		生活歯の漂白処置	水3-17
		外傷歯の処置	水3-18
		失活歯の漂白処置	水3-19
		歯内一歯周病変の処置	水3-20
		断髓法	水3-21
		アペキシフィケーション	水3-22
		ヘミセクション	水3-23
		暫間固定（複雑なもの）	水3-24
		歯周外科手術（歯周ポケット搔爬術 他）	水3-25
		困難なクラウンブリッジの支台歯形成と補綴処置	水3-26
		困難な可撤性補綴装置による欠損補綴治療	水3-27
	補綴・リハビリ系	複雑な補綴装置破損の修理・調整	水3-28
		摂食嚥下リハビリテーション	水3-29
		フッ化物洗口法の実施指導等	水3-30
		学校歯科健康診断等での保健指導	水3-31
	小児・矯正系	小児等に対する歯科保健指導	水3-32
		乳歯のう蝕治療	水3-33
		乳歯の単純抜歯	水3-34
		断髓法	水3-35
	高齢者・障害者歯科	簡単な装置の作成	水3-36
		障害者の歯科治療	水3-37
		口腔衛生指導	水3-38
		移乗	水3-39
4 チーム医療・地域医療		在宅医療（口腔清掃を含む）	水3-40

G の項目		水準 4 : 指導者のもとで見学・体験することが望ましい	項目番号
1 診療の基本	診療録・処方箋	手術記録・麻酔記録の作成	水4-1
	医療面接	医療面接（救急処置の必要な場合）	水4-2
	バイタルサイン	救急処置の治療	水4-3
	画像検査	CT	水4-4
		MRI	水4-5
		超音波検査	水4-6
		造影検査	水4-7
2 基本的診察法		採血	水4-8
		血液検査	水4-9
		免疫学的検査	水4-10
		生化学検査	水4-11
		一般細菌検査	水4-12
		心電図検査	水4-13
		呼吸機能検査	水4-14
		心理学的検査	水4-15
	臨床検査	止血機能検査	水4-16
		末梢神経機能検査	水4-17
		根管内視鏡検査	水4-18
		実態顕微鏡による検査	水4-19
		口臭検査	水4-20
		金属アレルギー検査	水4-21
		嚥下機能検査	水4-22
		細胞診検査	水4-23
		病理組織学的検査	水4-24
3 基本的臨床技能	共通	全身麻酔法と全身管理	水4-25
		入院患者管理	水4-26
	口腔外科系	全身麻酔下での口腔外科手術	水4-27
		レーザーによる歯肉除去	水4-28
		外科的歯内療法（歯根端切除等）	水4-29
	保存系	歯の再植と移植	水4-30
		永久固定	水4-31
		歯周外科手術（フラップ手術 他）	水4-32
		可撤性支台装置による複雑な欠損補綴治療	水4-33
		デンタルインプラント	水4-34
		顎関節症治療	水4-35
		CAD/CAM 法	水4-36
	補綴・リハビリ系	顎顔面欠損補綴治療	水4-37
		行動変容法	水4-38
		咬合誘導	水4-39
		保険処置	水4-40
	小児・矯正系	包括的矯正治療	水4-41
		薬物的行動調整下での歯科治療	水4-42
		在宅医療	水4-43
		医療連携	水4-44
4 チーム医療・地域医療		地域包括ケアシステムを踏まえた病診・病病連携	水4-45
		多職種連携によるチーム医療	水4-46

3. 平成28年度版 歯学教育モデル・コア・カリキュラム：学修目標番号相対表

F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））

F-1 診療の基本		学修目標番号
ねらい	口腔内の診察・記録及び歯科診療時の医療安全・感染対策について、知識・技能及び態度をシミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））を通して修得する。	
F-1-1)	口腔内の診察・記録	
学修目標	① 患者情報を収集、分析できる。	F1
	② 患者情報から必要な診察、検査を説明できる。	F2
	③ 高頻度歯科疾患を診断し、その治療方針・治療計画を立案できる。	F3
	④ 主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan <SOAP>)で診療録を作成できる。	F4
	⑤ インフォームド・コンセントを得ることができる。	F5
	⑥ 患者に関する医療情報を他の機関から収集（対診）し、また提供することができる。	F6
	⑦ 口腔と医科疾患との関連について説明することができる。	F7
F-1-2)	医療安全・感染対策	
学修目標	① 歯科用器具を安全に操作ができる。	F8
	② 清潔に配慮した操作ができる。	F9
	③ 医療安全対策を実践できる。	F10
	④ 標準予防策を実践できる。	F11
	⑤ 一次救命処置<BLS>ができる。	F12
F-2 基本的診察法		学修目標番号
ねらい	良好な医師－患者関係を構築するために必要な医療面接、全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査について、知識・技能及び態度を、シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））を通して修得する。	
F-2-1)	医療面接	
学修目標	① 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。	F13
	② 医療面接における基本的なコミュニケーションができる。	F14
	③ 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。	F15
	④ 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。	F16
	⑤ 患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。	F17
	⑥ 患者のプライバシーに配慮できる。	F18
	⑦ 患者に診断結果と治療方針・治療計画（保険装置、矯正治療装置の使用に関するこを含む）を説明できる。	F19
F-2-2)	全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査	
学修目標	① バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸・体温）を測定し、評価できる。	F20
	② 意識状態を確認し、評価できる。	F21
	③ 頭頸部の状態の診察ができる（視診、触診、打診、聴診、温度診）。	F22
	④ 歯周組織検査（プラーク染め出し、歯の動搖度検査、歯周ポケット検査）が実施できる。	F23
	⑤ 口内法デンタルエックス線検査の必要性を患者に説明し、その撮影ができる。	F24
	⑥ その他の必要な画像検査の必要性を患者に説明し、撮影の指示ができる。	F25
	⑦ 電気的根管長測定の必要性を患者に説明し、実施できる	F26
	⑧ 根管内細菌培養検査の必要性を患者に説明し、実施できる。	F27
	⑨ 唾液分泌能検査の必要性を患者に説明し、実施できる。	F28
	⑩ 咀嚼機能検査の必要性を患者に説明し、実施できる。	F29
	⑪ 診察及び検査結果を正確に診療録に記載できる。	F30
	⑫ 口腔内状態を記録できる。	F31

F-3 基本的臨床技能		学修目標番号
ねらい	歯科診療を実践するための基本的臨床手技をシミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））を通して修得する。	
F-3-1)	共通事項	
学修目標	① 手洗いと滅菌手袋の装着ができる。	F32
	② 歯科治療に必要な器材の準備、片付けができる。	F33
	③ ラバーダム防湿ができる。	F34
	④ 局所麻酔（表面麻酔、浸潤麻酔）を実施できる。	F35
	⑤ 概形印象採得が実施できる。	F36
	⑥ 診断用模型が製作できる。	F37
	F-3-2) 歯科保健指導	
学修目標	① 口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。	F38
	② セルフケアを行えるように動機付けできる。	F39
	③ 適切な口腔衛生指導を実施できる。	F40
	④ 適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。	F41
	⑤ 生活習慣に関して適切に指導できる。	F42
	⑥ 禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	F43
	⑦ ライフステージに応じた食育について指導できる。	F44
F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療		
学修目標	① う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置（コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復、メタルインレー修復、補修修復）を実施できる。	F45
	② 象牙質知覚過敏症に対する処置（薬物塗布、象牙質被覆）を実施できる。	F46
	③ 歯髓・根尖性歯周疾患の簡単な治療（覆髓（間接、直接）、抜髓、感染根管治療）を実施できる。	F47
	④ 歯周疾患の予防的処置（ブラークコントロール指導）を実施できる。	F48
	⑤ 歯周疾患の簡単な処置（スケーリング・ルートプレーニング）を実施できる。	F49
	⑥ 暫間固定を実施できる。	F50
F-3-4) 歯質と歯の欠損の治療		
学修目標	① 補綴治療に必要な診断情報の収集し、それにもとづく治療計画と装置の設計が実施できる。	F51
	② メタルポストコア、レジンポストコア、ファイバーポストコアによる支台築造の基本操作を実施できる。	F52
	③ クラウンブリッジによる補綴治療の各基本的操作を実施できる。	F53
	④ 可撤性義歯による補綴治療の前処置（レストシートの形成を含む）を実施できる。	F54
	⑤ プロビジョナルレストレーションの各基本的操作を実施できる。	F55
	⑥ 精密印象採得（寒天・アルジネート連合印象、シリコーン印象）の各基本的操作を実施できる。	F56
	⑦ 作業用模型を作製し、サベイニングによる装置の設計が実施できる。	F57
	⑧ 咬合採得と平均値咬合器装着の各基本的操作を実施できる。	F58
	⑨ 咀嚼機能検査の基本的操作を実施できる。	F59
F-3-5) 小手術・口腔粘膜疾患の治療		
学修目標	① 単純抜歯を実施できる。	F60
	② 基本的な切開・縫合・抜糸を実施できる。	F61
F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療		
学修目標	① フッ化物の歯面塗布を実施できる。	F62
	② 幼若永久歯の予防填塞を実施できる。	F63
	③ 小児のブラークコントロールを行うために、保護者への適切な口腔衛生指導を実施できる。	F64
	④ 模型及び頭部エックス線規格写真等より、分析、診断、治療計画を立案できる。	F65
F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療		
学修目標	① 高齢者及びその介護者に対する基本的な対応ができる。	F66
	② 障害者及びその介護者に対する基本的な対応ができる。	F67
	③ 在宅医療（訪問歯科診療を含む）時の介助ができる。	F68
	④ 精神鎮静法の介助ができる。	F69

G 臨床実習

G-1 診療の基本		学修目標番号
G-1-1)	臨床診断・治療計画	
ねらい	一口腔単位の歯科治療を行うために患者情報の収集・分析、診断、治療計画、記録についての知識・技能及び態度を修得する。	
学修目標	① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。	G1
	② 診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。	G2
	③ 主観的所見、客観的所見、評価、計画 <SOAP> による診療録及び指示書を作成できる。	G3
	④ 患者の訴え、また指導医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。	G4
G-1-2)	医療安全・感染対策	
ねらい	歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染対策についての知識、技能及び態度を修得する。	
学修目標	① 医療安全対策（標準予防策（standard precautions）、感染予防、医療機器の操作等を含む）を実践できる。	G5
	② 一次救命処置 <BLS> を実施できる。	G6
	③ 薬剤耐性 <AMR> に配慮した適切な抗菌薬の処方ができる。	G7
G-2 基本的診察法		学修目標番号
ねらい	良好な患者－歯科医師関係を築き、全身状態の把握、診断及び歯科治療に必要な診察並びに検査を実施できる知識・技能及び態度を修得する。	
学修目標	① 医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。	G8
	② 全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。	G9
	③ 診断並びに治療に必要な画像検査及び臨床検査を選択し、実施できる。	G10
G-3 基本的臨床技能		学修目標番号
ねらい	歯科診療を実践するための基本的臨床手技を修得する。	
学修目標	① 局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。	G11
	② 永久歯の単純抜歯を実施できる。	G12
	③ 軟組織の小手術を実施できる。	G13
	④ 齧歫その他の歯の硬組織疾患（象牙質知覚過敏症を含む）の保存修復治療ができる。	G14
	⑤ 齒髄・根尖性歯周疾患の治療ができる。	G15
	⑥ 歯周基本治療ができる。	G16
	⑦ 歯質の欠損に対する歯冠補綴治療ができる。	G17
	⑧ 歯の欠損に対する補綴治療ができる。	G18
	⑨ 口腔衛生指導を実施できる。	G19
	⑩ 歯科疾患を予防するための処置ができる。	G20
	⑪ 小児に対する歯科予防処置を実施できる。	G21
	⑫ 模型及び頭部エックス線規格写真等を分析、診断し、歯科矯正治療の計画を立案できる。	G22
G-4 チーム医療・地域医療		学修目標番号
ねらい	法令を遵守し、保健・医療・福祉・介護制度を理解し、チーム医療、地域医療、病診連携についての知識、技能及び態度を修得する。	
学修目標	① 地域医療・地域保健（在宅医療（訪問歯科診療を含む）、地域包括ケアシステム）を経験する。	G23
	② 病診連携、病病連携を経験する。	G24
	③ 多職種連携（歯科衛生士、歯科技工士、医師、薬剤師、看護師、その他の関連職種並びに介護職）によるチーム医療を経験する。	G25
G-5 患者中心の医療		学修目標番号
ねらい	臨床実習を通して患者中心の医療を実践し、歯科医師として必要な医の倫理、患者の権利についての知識、態度を修得する。	
学修目標	① 根拠に基づいた医療 <EBM>、narrative-based medicine <NB> に基づいた患者中心の医療を実践する。	G26
	② インフォームド・コンセントを得ることができる。	G27

III 臨床予備実習

1. 説明会

臨床予備実習説明会 令和5年 4月 6日（木）14：30～15：30（予定）
臨床実習引き継ぎ期間説明会 令和5年 9月15日（金）13：00～16：00（予定）

2. 期間

令和5年 4月 6日（木）～ 令和5年 9月29日（金）

3. 時限

4, 5, 6時限

4. 出席

毎日出席をとる。各自は常に指導教員にその所在を明らかにしておくこと。
遅刻、早退3回は欠席1回とする。
やむを得ない事情で、早退・欠席をする場合は学務係に届けること。

5. 臨床実習への進級（登院）要件

	合格	合格と認めにくい	不合格
C B T	I R T標準スコアを基に判定します。		I R T標準スコアを基に判定します。
O S C E (注1)			
チュートリアル	出席点（注2）， 授業評価（1）（注3） 両者が可	出席点は可， 授業評価（1） が不可	出席点が不可
固定実習（注4）	80以上	50以上～80未満	50未満
出席要件	3／4以上		3／4未満
判定 (教務委員会)	合格	2つ以上あれば 進級不可（注5）	1つでもあれば 進級不可

注1 O S C Eの判定基準については詳細を決定次第通知する。

注2 出席点：チュートリアル授業としての出席点。正当な事由がある場合の欠席を除く、
出席すべき日数×10点の3／4以上の出席点があること。
チュートリアル授業日、出席10点、欠席0点、遅刻・早退 -5点

注3 授業評価（1）：正当な事由がある場合の欠席を除く、出席すべきチュートリアル授業日の評価点および小テストの合計点が対応する授業日での満点の6割以上であること。

注4 各講座の判定（評価の指標…10～6点：可、5～1点：好ましくない、0点：不可）
(10点満点で評価) × 10講座 = 100満点

注5 ただし、C B T、O S C Eの点数状況で考慮する場合もある。

6. 実施方法及び実習要領

1) 固定実習

歯科・むし歯科（第一保存科）臨床予備実習 Operative Dentistry and Endodontics (固定実習)	5年次（4月～9月の定められた日時） 月～金曜 4, 5, 6 時限目	スキルス・ラボ
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】		
教授 保坂 啓一 (hosaka@tokushima-u.ac.jp)／月～金 8:30～17:15／3F 1 保存・教授室／633-7339)		
准教授 中西 正 (tnakanishi@tokushima-u.ac.jp)／火～金 17:00～18:30／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
講師 菅 俊行 (suge@tokushima-u.ac.jp)／月～水, 金 16:30～18:30／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
細川 義隆 (hosokawa@tokushima-u.ac.jp)／月～金 17:00～18:00／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
細川 育子 (ihosokawa@tokushima-u.ac.jp)／月～金 17:00～18:00／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
助教 武川 大輔 (d-takegawa@tokushima-u.ac.jp)／月～水, 金 17:00～18:30／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
米倉 和秀 (k.yonekura@tokushima-u.ac.jp)／月～水, 金 17:00～18:00／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		
細川 由樹 (yuki.h@tokushima-u.ac.jp)／月～水, 金 17:00～18:00／3F 1 保存・第1研究室／633-7340)		

【実習目的と概要】

う蝕などの硬組織疾患および歯髄・根尖歯周組織疾患に対する診査、診断およびその処置についての基礎知識・技術を模型実習を通して習得する。

【到達目標】

1. 指導医の直接の指導・監督のもとに口腔内状態を診療録に記載できる。
2. 指導医の直接の指導・監督のもとにラバーダム防湿ができる。
3. 指導医の直接の指導・監督のもとにセメント練和ができる。
4. う蝕検知液を用いた感染象牙質の除去が適切にできる。
5. Toffle mire 式リテナーを用いた修復用隔壁の装着ができる。
6. コンポジットレジン修復の術式を理解し、充填修復操作が適切にできる。
7. 根管治療の術式を理解し、根管貼薬、仮封が適切にできる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 口腔内診査及び口腔内状態の記録	実施(模型実習), 1 ケース以上	水1-10	F8, 9, 31
2. ラバーダム防湿	実施(模型実習), 1 ケース以上	水1-31	F8, 9, 34
3. セメント練和	実施 1 ケース以上	水2-15	F8, 9, 45
4. 感染象牙質除去	実施(模型実習), 1 ケース以上	水1-28	F8, 9, 45
5. 隔壁法	実施(模型実習), 1 ケース以上	水2-12	F8, 9, 45
6. コンポジットレジン修復	実施(模型実習), 1 ケース以上	水1-28	F8, 9, 45
7. 根管貼薬, 仮封	実施(模型実習), 1 ケース以上	水1-32	F8, 9, 47
		水 2-20	

【実習書, 参考書】

臨床（予備）実習マニュアルを配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日6日間の出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科・歯周病科（第二保存科）臨床予備実習
Periodontology and Endodontology
（固定実習）

5年次（4月～9月の定められた日時）

月～金曜4,5,6時限目
歯科診療室

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー＊／研究室／連絡先電話番号）】

教 授 湯本 浩通

(yumoto@tokushima-u.ac.jp／月・水・木・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・教授室／633-7344)

講 師 成石 浩司

(naruiishi@tokushima-u.ac.jp／月・木・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・第1研究室／633-7344)

稻垣 裕司

(yinazo@tokushima-u.ac.jp／水・木・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・第2研究室／633-7344)

助 教 二宮 雅美

(ninomiya.masami@tokushima-u.ac.jp／月・水・木 16:30～18:30／3F 第二保存科・第2研究室／633-7344)

板東 美香

(banchi@tokushima-u.ac.jp／月・木・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・第2研究室／633-7344)

生田 貴久

(namadent@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・第2研究室／633-7344)

木戸 理恵

(rie.kido@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 16:30～18:30／3F 第二保存科・第2研究室／633-7344)

*事前に各教員の在・不在を確認すること。なお、緊急の場合はこの限りではない。

【実習目的と概要】

歯周疾患・歯内疾患に対する診査、診断およびその治療法について相互実習もしくは模型を用いて実習を行い、それらの基礎的知識・技術を習得する。

【到達目標】

1. 歯科ユニットの基本的な機能を理解し、安全に清潔に操作できる。
2. 診査および診断に必要な器材を準備し、安全に清潔に操作できる。
3. 歯周治療に必要なブラークコントロールについて理解し、その意味を説明できる（適切な口腔衛生指導）。
4. 指導医の直接の指導・監督のもとに、安全に清潔にスケーリング・ルートプレーニングが実施できる。
5. 指導医の直接の指導・監督のもとに、安全に清潔に歯面研磨・歯周疾患の予防的処置が実施できる。
6. 歯内疾患の診査に必要な器材を準備し、安全に清潔に操作できる。
7. ラバーダム防湿法に必要な器材を準備し、安全に清潔に操作できる。
8. 指導医の直接の指導・監督のもとに、根管治療の術式を理解し安全に清潔に根管治療が実施できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 口腔内診査	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-9-12	F22, 30, 31, 33
2. ブラークコントロール指導	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-33	F38～40, 48
3. 歯周組織診査	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-19, 20	F23, 33
4. スケーリング・ルートプレーニング	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-34	F33, 49
5. 歯面研磨	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-35, 42-44	F33, 48
6. 歯髄診査	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-15-18	F33, 26, 27
7. ラバーダム	実施(学生相互), 1 ケース以上	水1-31	F33, 34
8. 感染根管治療（簡単なもの）	実施(模型), 1 ケース以上	水1-32	F33, 47

【実習書、参考書】

臨床（予備）実習マニュアルを配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

全回（6日間）出席を原則とし、実習時間内に小テストを行う。

実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科・そしゃく科（第一補綴科）臨床予備実習 Removable Prosthodontics (固定実習)	5年次（4月～9月の定められた日時） 月～金曜 4, 5, 6 時限目 歯科診療室、歯科スキルスラボ、第二技工室、講義室
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	
教 授 市川 哲雄 (ichi@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・教授室／633-7346)	
准教授 永尾 寛 (kan@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-9129)	
講 師 渡邊 恵 (megwat@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
石田 雄一 (junchan@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
助 教 後藤 崇晴 (tak510@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
岩脇 有軌 (iwawaki.yuki.1@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
松田 岳 (matsuda.takashi.1@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
藤本 けい子 (fujimoto.keiko@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00（遵守）／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	

【実習目的と概要】

歯科診療を行うにあたっての基本的な診療態度、とくに可撤性義歯による歯列の一部欠損あるいは全部欠損に対する補綴処置を行う際に留意すべき点について理解し、歯科保険診療の概念、口腔顎顔面の写真撮影方法についても習得する。

【到達目標】

1. 患者に欠損補綴の治療方針について説明できる。
2. 患者に義歯完成までの工程を説明できる。
3. 義歯治療に必要なプロトコールを作製できる。
4. 義歯の保険治療を理解できる。
5. 義歯の設計ができる。
6. 部分床義歯の前処置ができる。
7. 義歯装着時の注意事項を説明できる。
8. CAD/CAMについて理解できる。
9. 咀嚼機能検査の説明ができる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 高齢者に接する態度	説明	水 2-2	F13～18, F66
2. 可撤性補綴物の長所・短所	説明（相互実習） 1 ケース	水 1-1	F19
3. 固定性補綴物の長所・短所	説明（相互実習） 1 ケース	水 1-1	F19
4. インプラントの長所・短所	説明（相互実習） 1 ケース	水 1-1	F19
5. 義歯作製の工程	説明	水1-39	F19
6. 可撤性義歯治療のためのプロトコール作製	説明	水 1-39	F1, F51
7. 義歯治療に関する保険の説明	説明	水 1-4	
8. 部分床義歯の設計	実施, 1 ケース	水 1-6, 39	F57
9. 部分床義歯の前処置	実施, 1 ケース	水 1-39	F54
10. 義歯装着時の注意事項の説明	説明（相互実習） 1 ケース	水 1-39	F38～F44
11. CAD/CAMについての説明	説明	水 4-36	
12. 咀嚼機能検査の説明	説明	水 2-6	F29

【実習書、参考書】

臨床（予備）実習要項を配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科・かみあわせ補綴科(第二補綴科)臨床予備実習 Fixed Prosthodontics (固定実習)	5年次（4月～9月の定められた日時） 月～金曜 4, 5, 6 時限目 歯科診療室、歯科スキルス・ラボ、第一技工室
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	
教 授 松香 芳三 (matsuka@tokushima-u.ac.jp) / 月～水金 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・教授室／633-7350)	
准教授 大島 正充 (m-oshima@tokushima-u.ac.jp) / 月～水 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350)	
講 師 大倉 一夫 (okura.kazuo@tokushima-u.ac.jp) / 火水金 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350) 細木 真紀 (hosoki@tokushima-u.ac.jp) / 月水金 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350) 鈴木 善貴 (yosuzuki@tokushima-u.ac.jp) / 月水金 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350)	
助 教 宮城 麻友 (ueda.mayu@tokushima-u.ac.jp) / 月～水 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350) 井上 美穂 (inoue.miho@tokushima-u.ac.jp) / 月～水金 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350) 生田目 大介 (c000030613@tokushima-u.ac.jp) / 月～水 16:00～18:00 / 3F 2 補綴・第2研究室／633-7350)	

【実習目的と概要】

マネキン模型による支台歯形成、プロビジョナルレストレーション作製および相互実習による概形印象採得と研究用模型作製を通じて、臨床実習の遂行に必要な歯科ユニットと関連する設備の操作方法と、歯冠補綴及び固定性欠損補綴に関わる基本的な診療技術の基礎を習得する。

【到達目標】

1. 歯科ユニット各部の名称と機能を述べ、医療安全・感染対策に配慮した操作ができる。
2. シミュレーション実習を通じて、歯冠補綴に必要な支台歯形成を実施できる。
3. シミュレーション実習を通じて、既成樹脂冠を用いてプロビジョナルレストレーション作製を実施できる。
4. シミュレーション実習を通じて、概形印象採得が実施できる。
5. シミュレーション実習を通じて、研究用模型作製が実施できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 支台歯形成	実施（模型実習），1 ケース	水 1-21, 22, 36	F8～11, 13, 32, 33, 53
2. プロビジョナルレストレーション作製	実施（模型実習），1 ケース	水 1-21, 22, 37	F8～11, 13, 32, 33, 55
3. 概形印象採得	実施（相互実習），1 ケース	水 1-3, 21, 22	F8～11, 13, 32, 33, 36
4. 研究用模型の作製	実施（相互実習），1 ケース	水 1-3	F8～11, 33, 37

【実習書、参考書】

冠・橋義歯学（実習指針）を使用する。

【成績評価の方法】

実習日 6 日間の出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科口腔外科（口腔内科）臨床予備実習
Oral and Maxillofacial Surgery(Oral Medicine)
(固定実習)

5年次（4月～9月の定められた日時）

月～金曜4, 5, 6時限目

4F 歯科口腔外科診療室、中央診療棟4F 中央手術室

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授

准教授 青田 桂子

(aota.keiko@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床B棟4F 口腔内科・医局1／633-7352)

講 師 桃田 幸弘

(momota@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床B棟4F 口腔内科・医局1／633-7352)

助 教 可児 耕一

(kani.koichi.1@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床B棟4F 口腔内科・医局1／633-7352)

浪花 耕平

(naniwa.kouhei@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床B棟4F 口腔内科・医局2／633-7352)

【実習目的と概要】

歯科口腔外科疾患のなかで、特に口腔内科疾患についての基礎知識・治療技術を診療見学および相互実習を通して理解する。

【到達目標】

1. 口腔内科疾患を正しく理解できる。
2. 外来および手術室での処置における手指洗浄法が正しくできる。
3. 手術室での処置における手術衣が正しく着衣できる。
4. 頭頸部領域の基本的な診察できる。
5. 外来診療で用いる器具の正しい使用法を習得できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1.	外来処置における手洗い練習	実施 水 1-21	F9, 11, 32
2.	手袋着用、手術衣着衣の練習	実施 水 1-22, 23	F9, 11, 32
3.	頭頸部における診察法の練習	実施(学生相互) 水 1-9	F22
4.	抜歯、縫合など基本的術式の練習	実施(模型実習) 水 1-27, 水 2-10, 11	F60, 61, G12

【実習書、参考書】

臨床予備実習マニュアルを配付する。

参考書として、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日6日間の出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科口腔外科（口腔外科）臨床予備実習
Oral and Maxillofacial Surgery and Oncology
(固定実習)

5年次（4月～9月の定められた日時）
月～金曜 4, 5, 6 時限目
4F 歯科口腔外科診療室

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教授 宮本 洋二
(miyamoto@tokushima-u.ac.jp／水・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・教授室／633-7353)
講師 高橋 章
(atakahashi-dent@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
栗尾 奈愛
(kurio.naito@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
工藤 景子
(kkudoh@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
高丸 菜都美
(takamaru@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
助教 工藤 隆治
(kudoh@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
山村 佳子
(yamamura.yoshiko@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
福田 直志
(naoyukifukuda@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
上杉 篤史
(uesugi.atsushi@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
秋田 和也
(akita.kazuya@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
鎌田 久美子
(kamakama@tokushima-u.ac.jp／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)

【実習目的と概要】

口腔外科における基礎知識・基本手技を、診療・手術見学および相互実習を通して理解する。

【到達目標】

1. 手術に際して衛生的手洗い(手指消毒法)が正しくできる。
2. 手袋が正しく着用できる。
3. 抜歯等の口腔外科小手術で用いる器具の正しい使用法が説明できる。

【実習内容及び実習方法】

- | | 項目番号 | 学修目標番号 |
|--------------------|----------------------|----------|
| 1. 抜歯、縫合など基本的術式の練習 | 水1-27, 2-10 | F60, F61 |
| 2. 診療室および手術室での見学 | 水 4-2～14, 16, 24, 27 | |

【実習書、参考書】

特になし。

【成績評価の方法】

実習日4日間の出席を原則とし、実習態度を含めて総合的に評定する。

矯正歯科 臨床予備実習 Orthodontics (固定実習)	5年次 (4月～9月の定められた日時) 月～金曜 4, 5, 6 時限目 矯正歯科診療室
------------------------------------	--

【担当者 (メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号)】

教授 田中 栄二
(etanaka@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・教授室／633-7356)

講師 堀内 信也
(horiu@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7460)
日浅 雅博
(mhiasa@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7357)

助教 渡邊 佳一郎
(nabe@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7460)
岩浅 亮彦
(iwasa.akihiko.1@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7357)
佐藤 博子
(hiroko.s@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7460)
松木 佑太
(yuta.matsuki@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7460)
清水 宗
(shimizu.sou.2@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:30／3F 矯正・第1研究室／633-7460)

【実習目標と概要】

口腔、顎態の診査の基礎的な知識と技術について相互実習を通じて習得する。

不正咬合に対する診断、治療の必要性とその意義を理解する。

矯正歯科臨床における診査、診断および治療計画の立案に必要な基礎的知識を習得する。

【到達目標】

1. 検査、診察に必要な器材の準備、片づけができる。
2. 口腔、顎態の基本的な診察・検査を行うことができる。
3. 不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
4. 口腔模型、エックス線写真の分析を習得する。
5. 矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。

【実習内容および実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 印象採得、咬合採得、模型作製	実施 (学生相互), 1 ケース	水 1-47	F36, 37
2. 模型および顎態分析	実施 (学生相互), 1 ケース	水 2-38	F65
3. 口腔・顎顔面の診査	実施 (学生相互), 1 ケース	水 1-9, 10	F65
4. 正面・側面頭部エックス線規格写真 の分析	実施 (学生相互), 1 ケース	水 2-39	F65
5. 診断	実施 (学生相互), 1 ケース	水 2-40, 41	F19, 65

【教科書、参考書】

臨床実習マニュアルを配付する。

歯科矯正学 (第6版), 医歯薬出版, 2019

【成績評価の方法】

実習 6 日間の出席を原則とする。

- －分析の精度評価 : 20 点
 - －適切な治療計画立案の評価 : 30 点
 - －プレゼンテーションの評価 : 30 点
 - －実習態度 : 20 点
- 合計 60 点以上を合格とする。

小児歯科 臨床予備実習
Pediatric Dentistry
(固定実習)

5年次（4月～9月の定められた日時）月～金曜4,5,6 時限目
第4実習室（歯学部2F）

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授 岩崎 智憲

(iwasaki@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 17:00～18:00／4F 教授室／633-7358)

講 師 長谷川智一

(hasegawa@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)

中川 弘

(nakagawa@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)

助 教 上田 公子

(kimiko_ueda@tokushima-u.ac.jp／月・水・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)

北村 尚正

(kitamura.takamasa@tokushima-u.ac.jp／水・木・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)

赤澤 友基

(akazawa.yuki@tokushima-u.ac.jp／月・木・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)

河原林 啓太

(kawarabayashi.keita@tokushima-u.ac.jp／月・木・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)

【実習目的と概要】

小児歯科学の臨床実習を行うために必要な基本事項、とくに小児に対するブラッシング指導及び齲歯予防処置についての基本的な知識・技術を診療室における相互実習を通して習得する。

【到達目標】

- わかりやすい言葉遣いと話し方で小児のブラッシング指導が実施でき、専門的口腔清掃が実施できる。
- 齲歯予防におけるフッ化物の応用が説明でき、フッ化物歯面塗布の実施および塗布後の注意事項を説明できる。
- レジン系フィッシャー・シーラントの填塞に必要な器材の名称と機能を述べ、準備および実施ができる。
- 混合歯列模型の計測と分析を行うことができる。
- 保隙装置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 保護者へのブラッシング指導	実施(学生相互), 1 ケース	水1-52, 53	F64
2. 専門的口腔清掃	実施 , 1 ケース	水1-51	F64
3. フッ化物歯面塗布	実施 , 1 ケース	水2-31	F62
4. レジン系フィッシャー・シーラント	実施(人工歯), 1 ケース	水2-32	F63
5. 混合歯列模型分析	実施 , 1 ケース	水2-38, 41	F65
6. 保隙装置の説明	実施(学生相互), 1 ケース	水3-36, 水4-39, 40	F65

【実習書、参考書】

「小児歯科臨床予備実習および臨床実習の手引き」を配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに専門誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日3日間の出席を原則とする。実習態度、実習の技術的評価と到達度などから総合的に評定する。

歯科（歯科放射線科）臨床予備実習 Oral and Maxillofacial Radiology (固定実習)	5年次（4月～9月の定められた日時） 月～金曜 4, 5, 6 時限目 歯科放射線学研究室(臨床B棟 2F) 歯科放射線科(4F)診療室
---	---

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授

准教授 細木 秀彦
 (hidehiko@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:30～17:30 / 臨床B棟 2F 放射線・第2研究室 / 633-7362)
 講 師 前田 直樹
 (maeda@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:30～17:30 / 臨床B棟 2F 放射線・第2研究室 / 633-7362)
 助 教 水頭 英樹
 (suito.hideki@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:30～17:30 / 臨床B棟 2F 放射線・第3研究室 / 633-7362)

【実習目的と概要】

歯科臨床に必要な放射線学の基礎的知識・技能・態度を、相互実習を通して習得する。

【到達目標】

1. 口内法エックス線撮影の目的、放射線被曝、放射線防護について説明できる。
2. 口内法エックス線撮影の術式を理解し、行うことができる。
3. 写真（画像）処理を理解し、良好な画質のエックス線写真を作ることができる。
4. 口内法エックス線写真の正常解剖の読影を行うことができる。
5. 口内法エックス線写真を正しくマウントし、整理を行うことができる。
6. 口内法症例の画像診断（読影）を行うことができる。
7. パノラマエックス線撮影の撮影原理、術式、位置づけについて説明できる。
8. パノラマエックス線撮影を行うことができる。
9. パノラマエックス線写真の読影（正常解剖）を行うことができる。

【実習内容及び実習方法】

			項目番号	学修目標番号
1. 口内法エックス線写真撮影の説明	説明		水 1-14	F2, F24
2. 口内法エックス線写真撮影 (二等分法、咬翼法)	実施（相互実習）	1 ケース	水 1-14	F24
3. 口内法エックス線写真読影（正常解剖）	実施	1 ケース	水 1-14	F24
4. 口内法エックス線写真整理	実施	1 ケース	水 1-14	F24
5. 口内法症例の読影	実施	4 ケース	水 1-14	F24
6. パノラマエックス線撮影の 撮影原理、術式、位置づけ	説明		水 2-3	F25
7. パノラマエックス線写真撮影	実施（相互実習）	1 ケース	水 2-3	F25
8. パノラマエックス線写真の読影 (正常解剖)	実施	1 ケース	水 2-3	F25

【実習書、参考書】

臨床実習帳を配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日の出席を原則とする。上記の2.～5.ならびに7.～8.のケースを満たしたら合格とする。

歯科口腔外科（歯科麻酔科）臨床予備実習
Dental Anesthesiology
(固定実習)

5年次（4月～9月の定められた日時）

歯科麻酔科外来（外来棟4F Lブロック）およびスキルスラボ
(医学臨床A棟1F)

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）

教授 川人 伸次

(kawahito.shinji@tokushima-u.ac.jp／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床B棟3F歯科麻酔科教授室／633-7366)

准教授 高石 和美

(takaishi.k@tokushima-u.ac.jp／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床B棟3F歯科麻酔科医局／633-7367)

講師 江口 覚

(seguchi@tokushima-u.ac.jp／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床B棟3F歯科麻酔科医局／633-7367)

助教 藤原 茂樹

(josephluke@tokushima-u.ac.jp／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床B棟3F歯科麻酔科医局／633-7367)

【実習目的と概要】

歯科局所麻酔とバイタルサインおよび一次救命処置についての基礎知識・技術をシミュレーターや相互実習で習得する。

【到達目標】

1. 基本的なバイタルサインを測定し、その意味を説明できる。
2. 歯科診療に必要な局所麻酔および皮内テスト実施に必要な器材を準備できる。
3. 局所麻酔薬のアレルギー検査に関する基礎的事項を説明することができる。
4. 指導医の直接の指導・監督のもとに歯科診療に必要な局所麻酔を実施できる。
5. 救急時に実施すべき処置を理解し、その意味を説明できる。
6. 一次救急救命処置を実施できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 血圧、脈拍数測定	実施（学生相互）1ケース	水1-8	F20, 21, 30
2. 表面麻酔	実施（シミュレーター）1ケース	水1-24	F8, 9, 10, 11, 33, 35
3. 局所浸潤麻酔	実施（シミュレーター）1ケース	水1-24	F8, 9, 10, 11, 33, 35
4. 下顎孔伝達麻酔	実施（シミュレーター）1ケース	水2-7	F8, 9, 10, 11, 33
5. 皮内テスト	実施（シミュレーター）1ケース	水1-24	F8, 9, 10, 11, 33
6. 気道確保	実施（シミュレーター）1ケース	水4-3	F12
7. 人工呼吸	実施（シミュレーター）1ケース	水4-3	F12
8. 胸骨圧迫	実施（シミュレーター）1ケース	水4-3	F12
9. 誤嚥に対する処置	実施（シミュレーター）1ケース	水4-3	F12

【実習書、参考書】

臨床予備実習帳を配付する。

参考書：歯科麻酔学 第8版、医歯薬出版、2019

臨床歯科麻酔学 第6版、永末書店、2021

ミラー麻酔科学 第6版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2007

【成績評価の方法】

1. すべての実習日の出席を必須とする。もし欠席をした場合には、原則として予備日を設け実習を行う。
2. 実習態度や実習内容の到達度により10点満点にて評価を行い、6割以上であること。
1, 2を満たすことを臨床予備実習の修了要件とする。

2) 学外体験実習

障碍者歯科 歯科臨床予備実習 学外体験実習	5年次（6月～7月） 火曜 午後 13:30～17:00 吉野川育成園
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	

講 師 中川 弘
(nakagawa@tokushima-u.ac.jp)／水・木・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)
助 教 上田 公子
(kimiko_ueda@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)

【実習目的と概要】

知的障害者を理解すると共に、口腔疾患の予防及び口腔保健の向上に寄与できるよう、障害者ひとりひとりに合わせたセルフケア指導ならびにホームケア指導（施設職員に対する示唆）を各自実習し、習得する。

【到達目標】

1. 障害者支援施設の役割と目的を理解する。
2. 障害者支援施設における支援事業を理解する。
3. 指導医の指導・監視のもとに障害者へのセルフケア指導が実施できる。
4. 指導医の指導・監視のもとに障害者施設職員に対する示唆が実施できる。

【実習内容及び実習方法】

	項目番号	学修目標番号
1. 施設の紹介	園長から説明	水 1-54 G23
2. 施設見学	各作業科、特別処遇班等	水 1-54 G23
3. 障害者のセルフケア指導	実施、1ケース	水 2-42 F67
4. 障害者施設職員とのケーススタディ	実施、1ケース	水 2-42 F67

【実習書、参考書】

実習の概要は当日施設で配付する。

【成績評価の方法】

- ・実習日の出席を原則とする。
- ・体験内容についての日誌およびレポートを提出し、それを評価する。

3) チュートリアル授業

1. チュートリアル授業の目的

チュートリアル教育は、学生の自主的な勉学意欲を育て、問題解決型の教育システム（PBL：Problem Based Learning）の効率的な運用を図るために最も適した教育方式の一つであると考えられている。チュートリアル授業では、少人数グループの学生全員が当事者意識をもち、学習法を学び、使える知識を得ることができる。さらに、グループ学習を行うことでコミュニケーション能力を向上させることができる。

本チュートリアル授業では、学生が臨床実習を行うに先立ち、問題解決能力を習得すると共に、将来医療人としての知識、態度、コミュニケーション能力を習得することを目的とする。

2. 到達目標

1. 課題シートから問題点を抽出できる。
2. 問題を解決するための自己学習ができる。
3. 他人の意見を充分理解できる。
4. 自分の考えをわかりやすく明瞭に表現できる。
5. 問題解決のために建設的な意見を述べることができる。
6. 独創的な考え方で論理的に発言できる。
7. 司会者の学生は、議論を進行・促進させることができる。
8. 書記の学生は、内容を充分にまとめながら記載することができる。

3. チュートリアル授業の概要

1) 日程

令和5年度前期の指定した日時の午後（13:00～16:00）をチュートリアル授業とする。1つの課題を2日間で討論し、3日目にはグループごとに学生自身が学習内容についてプレゼンテーションを実施し、4日目は課題責任者がフィードバックを行う。3課題を学習する。

2) チュートリアル用課題シート

課題シートとは、各臨床科目の教育目標に対応した幅広い内容を含んだ症例のシナリオで、1日目、2日目のチュートリアル授業に先だって配布される。学生は課題シートを読み、問題点を抽出する。それら問題点を各自で学習し、1日目、2日目のチュートリアル授業中にグループ内で討議する。

3) チューターおよび課題作成者

チューターは、本学の教員がその専門分野とは関係なく担当する。1人のチューターが、前半2回のチュートリアル授業を連続して担当する。今回のチュートリアルでは、学生を6グループに分け、各グループに1名のチューターが参加してチュートリアル授業を担当する。

課題作成者は、課題シートを作成した教員であり、担当課題が行われている間は常駐し、チュートリアル授業のチューターあるいは学生からの質問を受け、専門的な立場から適切な指導を行う。

4) 学生のグループ区分

チュートリアル授業においては、学生を6グループに分ける。各グループは予め決められた教室に分かれてチュートリアル授業を受ける。グループ分けなどについては別途配布する。

5) チュートリアル授業方法（詳細は別途チュートリアルマニュアルを配布する。）

(1) 第1日目のチュートリアル

まず学生およびチューターは自己紹介を行う。その後、討議の進行を担当する「司会者」、ホワイトボードに記入する「書記」を課題毎に決める。あらかじめ配布された課題シートの、問題点、疑問点、論点となるような事項を列挙し、学習すべき問題点（疑問点、論点）について整理する。その後自己学習に基づいて

学生同士で討論する。遅くとも授業終了の30分前には1日目のまとめに入り、不十分なところは再度自己学習を追加する。その後、2日目の課題シートが配付される。課題シートを読んだ後、学習すべき問題点（疑問点・論点）を列挙、整理し、自己学習を行う。

(2) 第2日目のチュートリアル

第1日目で不十分だった討論内容と、第2日目で抽出した問題点について自己学習内容に基づいて学生同士で討論する。授業終了後の20～30分前には学生自身で学習のまとめを行う。

また、この時間終了前に課題責任者から第3日目のプレゼンテーションの内容について指示が与えられる。グループごとに、プレゼンテーションの内容が重複しないように中心課題を与えられるので、それを含めた内容でプレゼンテーションできるようグループ内で協力して準備する。

授業時間の最後に、学習目標に関連する内容の小テストと授業評価をマークシート形式で行い提出する。

(3) 第3日日のチュートリアル

各グループの代表者がチュートリアルで学習した内容のまとめと、各グループに与えられる中心課題、さらにシナリオ作成者に対する質問事項等をまとめて発表する。全課題を終了するまでに最低でも1度は発表者になるように、少なくとも2名以上で担当する。

(4) 第4日目のチュートリアル

課題作成者が課題シートの内容に関してフィードバック授業をおこなう。

4. 成績評価の方法

評価はチュートリアル担当者がとりまとめ、最終判定は教務委員会がおこなう。

評価項目

1) 出席点

原則としてすべての授業に出席しなければならない。出席点を設ける。

2) 出席以外の評価項目

チュートリアル授業に積極的に参加しているか、自己学習内容を文章化しているか、自己学習を十分に行っているか、自己学習内容に基づき意見を述べているか、問題解決に向けて建設的な意見を述べているか、などの授業参加態度を担当チューターが評価する。またシナリオごとに小テストが準備されおり、これも評価に加える。出席・授業参加態度や貢献度・小テストを総合的に評価する（不合格と判定された場合には、レポート等による再試験も考慮する）。授業評価は、進級判定時に考慮される。

4) 関連講義（日時は別紙案内）

(1) 将来何を目指すのか	歯学部長・馬場 麻人	教授
(2) 臨床実習に臨む心構え	副病院長・湯本 浩通	教授
(3) チーム医療について	口腔保健学科・片岡 宏介	教授
(4) 院内感染対策について	感染制御部副部長・可児 耕一	助教
(5) 病院実習での患者対応について	看護部・木村 久美	看護師長
(6) 保険医療制度について	社会保険審査委員・細木 真紀	講師
(7) リスクマネジメントの現状と重要性	リスクマネジメント部門長・高橋 章	講師
(8) 輸血学	輸血・細胞治療部・三木 浩和	副部長
(9) 薬剤管理と処方箋	薬剤部・合田 光寛	副部長
(10) 徳島大学病院歯科部門の病院情報システム	病院情報センター副部長・大倉 一夫	講師

5) その他

客観的臨床能力試験（OSCE: Objective Structured Clinical Examination）については別冊子に記載する。

診療参加型臨床実習後臨床能力試験（PCC : Post Clinical Clerkship）については別冊子に記載する。

IV 臨床実習

1. 説明会

令和5年 9月29日（金）13：00～14：00（予定）

2. 期間

令和5年 10月 2日（月）～令和6年 9月30日（月）

3. 時限

1, 2, 3, 4, 5, 6時限

ただし、第5年次の後期と第6年次の前期金曜日4, 5, 6時限は、講義を行う

4. 臨床実習成績評価

<臨床実習修了要件>

- ① 出席要件 全体の出席日数3／4以上及び各臨床教室の出席要件
※原則臨床実習の欠席は認めない。欠席した場合は、長期休暇期間中に振替えて出席すること。病気で早退・欠席した場合は、復帰後に欠席届及び診断書を提出すること。
※タイムカードの押し忘れは状況によって遅刻、早退、欠席扱いとする。
- ② 歯科臨床実習、矯正歯科実習、歯科放射線実習、小児歯科実習、口腔外科実習、口腔内科実習、歯科麻酔科実習、総合歯科実習、口腔インプラントセンター実習、学外臨床実習の必要要件（minimum requirement）を満たす。
- ③ 週間ポートフォリオの提出
- ④ PostCC PXの合格
- ⑤ 臨床実習試験の必要要件を満たす。

臨床実習試験

- 形式、問題数、合格基準、本試・再試の日程等については、別途、第6年次の前期中に通知する。
- 受験資格 臨床実習修了要件の①, ②, ③, ④, ⑤を令和6年9月30日までに満たす。

<成績判定>

臨床実習教育支援センターで集計、成績を教務委員会に提出。教務委員会は予備判定をし、教授会に提出し、最終認定をする。

成績は、臨床実習修了要件を全て満たしたものに対して、歯科臨床実習（80）、歯科矯正（10）、小児歯科（10）、口内（10）、口外（10）、放射線（10）、歯科麻酔科（10）、総診（10）、口腔インプラントセンター（10）、計160点を100点満点に換算し、
秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）及び可（60点以上）に区分する。

*その他疑義が生じた場合は、臨床実習教育支援センター会議に諮ってこれを定める。

*臨床実習の評価（45単位）には、臨床予備実習の評価も含む。

5. 実施方法及び実習要項

1) 歯科臨床実習

歯科臨床実習 Clinical Training	5年次後期 月～木曜 1～6 時限目, 金曜 1～3 時限目 6年次前期 月～木曜 1～6 時限目, 金曜 1～3 時限目
【担当者】	
<臨床実習教育支援センター>	
センター長 教授 保坂 啓一 (hosaka@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:00／3F 1 保存・教授室／633-7339)	
副センター長 教授 湯本 浩通 (yumoto@tokushima-u.ac.jp／月・水・木・金 17:00～18:00／3F 第二保存科・教授室／633-7343) 講師 成石 浩司 (naruishi@tokushima-u.ac.jp／月・木・金 17:00～18:00／3F 第二保存科・第1研究室／633-7344)	
センター長補佐 助教 岸本 卓大 (t.kishi@tokushima-u.ac.jp／月～木 17:00～18:00／3F 1 補綴・研究室／633-7347)	
歯科（むし歯科、歯周病科、そしゃく科、かみあわせ補綴科、歯科放射線科）及び 歯科口腔外科（口腔内科、口腔外科）の所属教員	

【実習目的と概要】

歯科疾患を抱える患者を全人的・全身的に捉える態度を養い、卒後臨床研修を行うために必要な基本的歯科診療能力を修得するとともに、口腔保健増進の重要性を深く認識することを目的とする。臨床実習形態は、「一口腔一単位」の総合的歯科診療を目指し、担当患者を継続的に治療する（診療実習）。また、診療介助・見学によって診療に参加する（参加型実習）。なお、履修項目が偏らないよう個々の症例をリクワイアメントとするケース制を併用する。担当症例については、治療後、症例報告を行う。

【到達目標】

1. 患者を全人的・全身的に捉え、患者中心の立場から適切な口腔診断と一口腔一単位の視点に立った歯科診療計画を立案できる。
2. 患者の社会的・心理的背景を考慮しつつ、正確かつ必要十分な医療面接ができる。
3. 口腔診査や種々の検査で得られた所見及び実施した診療内容を整理して診療記録に正しく記載できる。
4. 歯科診療に係わる基本的な診察及び必要な検査を行うことができる。
5. 診療記録に記載されている検査所見（画像検査、機能系検査、血液検査、生化学検査、微生物学検査等）に関する基礎的事項とその意味について説明し、所見を解釈し、診断を行うことができる。
6. 臨床経過等の記録からその意味を理解し、また、治療計画の立案に必要な情報を適切に収集することができる。
7. 指導医の直接の指導・監督のもとに、象牙質知覚過敏、う蝕の簡単な症例の処置が出来る。
8. 指導医の直接の指導・監督のもとに、歯髓・根尖歯周組織疾患の簡単な症例を処置できる。
9. 指導医の直接の指導・監督のもとに、歯周疾患の簡単な症例とメインテナンスの処置ができる。
10. 指導医の直接の指導・監督のもとに、可撤性欠損補綴処置の基本的診療を行うことができる。
11. 指導医の直接の指導・監督のもとに、固定性欠損補綴処置の基本的診療を行うことができる。
12. 指導医の直接の指導・監督のもとに、抜歯および小手術の基本的診療を行うことができる。
13. 指導医の直接の指導・監督のもとに、エックス線撮影、写真（画像）処理、画像診断（読影）及び画像管理を行なうことが出来る。
14. 指導医の直接の指導・監督のもとに、口腔の健康増進に関する相談、う蝕・歯周病予防に関わる口腔保健指導と健康管理を行うことができる。
15. 指導医の直接の指導・監督のもとに、歯科診療における術前・術中・術後の指導管理を行える。
16. 指導医の介助・見学を行うことにより歯科医療行為の術式を理解し、その意味を説明できる。

【実習内容（実施）】	項目番号	学習目標番号
<象牙質知覚過敏処置>		
1. 診査・診断	水 1-1, 4, 7, 10-12, 14-17, 21, 26 水 2-2 水 3-17, 19	F3 G1-5, 8-10, 26, 27
2. 防湿	水 1-4, 21, 30 水 3-17, 19	G14
3. 象牙質知覚過敏症治療薬の塗布	水 1-4, 21, 30 水 3-17, 19	F46 G14
4. 術後診査	水 1-4, 21, 30 水 3-17, 19	G14
5. 経過観察	水 1-4, 21, 30 水 2-8 水 3-17, 19	G14
<コンポジットレジン・セメント修復>		
1. 診査・診断	水 1-1, 4, 7, 10-12, 14-17, 21, 26 水 2-2	F3 G1-5, 8-10, 26, 27
2. シェードティギング	水 1-4, 21, 28 水 2-12, 13, 15	G14
3. ラバーダム防湿	水 1-31	G14
4. う蝕除去	水 1-4, 21, 24, 28 水 2-12, 13, 15-19 水 4-28	G14
5. プライマー・ポンディング	水 1-4, 21, 28 水 2-12, 13	G14
6. 填塞	水 1-4, 21, 28 水 2-12, 13, 15	G14
7. 形態修正・咬合調整	水 1-4, 21, 28 水 2-12, 13, 15	G14
8. 仕上げ研磨	水 1-4, 21, 28 水 2-12, 13, 15	G14
9. 経過観察	水 1-4, 21, 28, 29 水 2-8, 12, 13, 15	G14
<インレー修復>		
1. 診査・診断	水 1-1, 4, 7, 10-12, 14-17, 21, 26 水 2-2	F3 G1-5, 8-10, 26, 27
2. う蝕除去・覆雫・裏層	水 1-4, 21, 24 水 2-14, 16, 17, 18, 19	G14
3. 窩洞形成	水 1-4, 21, 24 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14

4. 精密印象	水 1-4, 21 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14
5. 対合歯印象・咬合採得	水 1-4, 21 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14
6. 仮封	水 1-4, 21 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14
7. 技工操作	水 1-4, 6, 21 水 2-14	G14
8. インレー試適・咬合調整	水 1-4, 21 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14
9. インレー合着	水 1-4, 21 水 2-14 水 3-14, 15, 16	G14
10. 経過観察	水 1-4, 21 水 2-8, 14 水 3-14, 15, 16	G14
<歯内治療>		
1. 診査・診断	水 1-1, 4, 7, 10-12, 14-17, 21, 26 水 2-2 水 3-18 水 4-18, 19	F3 G1-5, 8-10, 26, 27
2. ラバーダム防湿	水 1-31	G15
3. 髄腔開拡	水 1-4, 21, 24, 31, 32 水 2-20, 21 水 3-18, 20 水 4-18, 19	G15
4. 根管口明示	水 1-4, 21, 24, 31, 32 水 2-20, 21 水 3-18, 20 水 4-18, 19	G15
5. 作業長測定	水 1-4, 18, 21, 24, 31, 32 水 2-20, 21 水 3-18, 20	G15
6. 根管形成、根管貼薬	水 1-4, 21, 24, 31, 32 水 2-20, 21 水 3-18, 20, 21, 22	G15
7. ポイント試適・X-p	水 1-4, 14, 21, 31, 32 水 2-20, 21 水 3-18, 20	G15
8. 根管充填・X-p	水 1-4, 14, 21, 31, 32	G15

	水 2-5, 20, 21 水 3-18, 20 水 4-29	
9. 経過観察	水 1-4, 14, 21, 32 水 2-8, 20, 21 水 3-18, 20	G15
<歯周治療>		
1. 診査・診断	水 1-1-4, 7, 10-12, 14, 19-21, 26 水 2-1-3	F3 G1-5, 8-10, 25-27
2. プラークコントロール指導, スケーリング	水 1-4, 21, 33, 34	G16
3. 再評価	水 1-1-4, 10-12, 14, 19-21	G16
4. スケーリング・ルートプレーニング	水 1-4, 21, 34	G16
5. 歯周外科処置	水 1-4, 21, 22, 24 水 3-23, 25 水 4-30, 32	G16
6. 暫間固定	水 1-4, 21 水 2-22, 23 水 3-24 水 4-31	F50 G16
7. 習癖に対する習慣矯正	水 1-4, 21 水 2-33-37	G16
8. メインテナス	水 1-4, 21, 35 水 2-8	G16
9. 診断用模型	水 1-3, 4	G16
<クラウン・ブリッジ>		
1. 診査・スナップ印象	水 1-1-4, 6, 7, 10-12, 14, 19-21, 26 水 2-1-3 水 4-21	F3 G1-5, 8-10, 26, 27
2. 築造窩洞印象	水 1-21 水 2-24-26	F52 G17
3. 支台歯形成・仮封冠	水 1-21, 24, 36, 37 水 2-27 水 3-26 水 4-33, 36	G17
4. 精密印象・咬合探得	水 1-21, 36 水 2-27 水 3-26 水 4-33, 36	F56 G17
5. 試適・咬合面コア	水 1-21, 36 水 2-27 水 3-26 水 4-33, 36	G17
6. 口腔内試適・仮着	水 1-21, 36	G17

	水 2-27 水 3-26 水 4-33, 36	
7. 合着	水 1-21, 36 水 2-27 水 3-26 水 4-33, 36	G17
8. 経過観察	水 1-10-12, 14, 20, 21, 36, 38 水 2-27, 30 水 3-26 水 4-33, 36	G17
9. 診断用模型	水 1-3	G17
10. 支台築造・仮封冠	水 1-37 水 2-24, 25, 26	G17
11. 個歯トレー・個人トレー	水 1-25, 36 水 2-27	G17
12. 蝶型採得・鋳造	水 1-25, 36 水 2-27	G17
13. ポンティック完成・鑲着	水 1-36 水 2-27	G17
14. 研磨・完成	水 1-36 水 2-8, 27	G17
<有床義歯>		
1. 診査	水 1-1-4, 6, 7, 10-12, 14, 20, 21, 26 水 2-1-3, 6 水 3-8, 9 水 4-22	F3, 59 G1-5, 8-10, 26, 27
2. 概形印象	水 1-3, 6, 21 水 3-27 水 4-37	G18
3. 精密印象	水 1-21, 25, 39 水 2-28 水 3-27 水 4-37	G18
4. 咬合採得	水 1-21, 25, 39 水 2-28 水 3-27 水 4-37	F58 G18
5. チェックバイト, ゴシックアーチ	水 1-21, 25, 39 水 2-28 水 3-27 水 4-37	G18
6. 蝶義歯試適	水 1-21, 25, 39 水 2-28 水 3-27	G18

	水 4-37	
7. 装着	水 1-21, 39 水 2-28 水 3-27 水 4-37	G18
8. 調整	水 1-21, 39-41 水 2-6, 8, 28-30 水 3-27, 28 水 4-37	G18
9. 診断用模型	水 1-3	G18
10. 個人トレー	水 1-25, 39 水 2-28	G18
11. 義歯設計・技工指示書	水 1-6	G18
12. 作業用模型	水 1-39 水 2-28	G18
13. 咬合床製作	水 1-25, 39 水 2-28	G18
14. 咬合器装着	水 1-39 水 2-28	G18
15. 人工歯排列・歯肉形成	水 1-25, 39 水 2-28	G18
16. 埋没・重合	水 1-39 水 2-28	G18
17. 咬合修正・研磨	水 1-39 水 2-28	G18
<抜歯・口腔内消炎手術>		
1. 口腔内・全身状態診査	水 1-1, 2, 4, 7-13, 21, 26 水 2-1, 2	F3, 6, 7 G1-5, 8-10, 26, 27
2. エックス線写真撮影・読影	水 1-14 水 2-3	G10
3. 局所麻酔	水 1-21, 22, 24 水 2-7	G11
4. ヘーベル・鉗子による抜歯	水 1-21, 22, 27	G12
5. バーによる骨整形／削除	水 1-21, 22, 27	G12
6. 縫合	水 1-21, 22 水 2-10	G12
7. 切開・排膿	水 1-21, 22 水 2-9	G13
8. 患者への説明（術後）	水 1-27	G12
9. 投薬	水 1-5	G7

10. 抜糸	水 1-21 水 2-11	G12
11. 洗浄・消毒	水 1-21, 27	G12

minimum requirement

診療実習

	項目	症例数
保存修復治療	コンポジットレジン修復(診査・診断・窩洞形成・充填・研磨・予後の確認・診療録の作成・口腔内写真撮影)	3
	*インレー／アンレー修復(診査・診断・窩洞形成・印象・合着・予後の確認・診療録の作成・口腔内写真撮影)	
	*グラスアイオノマーセメント修復(診査・診断・窩洞形成・充填・研磨・予後の確認・診療録の作成・口腔内写真撮影)	
	*上記の症例を実施した場合、それぞれ1症例に限り、保存修復治療の症例とみなす。	
	象牙質知覚過敏処置(診査・診断・処置の実施・予後の確認・口腔内写真撮影・診療録の作成)	1
歯内治療	抜髓または感染根管治療 (診査・診断・(局所麻酔)・ラバーダム・髓腔開拓・根管口明示・作業長(根管長)測定・根管形成・根管貼薬・根管充填・経過観察・診療録の作成)	1
歯周治療	医療面接・歯周組織検査(口腔内写真撮影、歯の動搖度検査、歯周ポケット検査、プラーク指數測定、歯石指數測定、出血指數測定、咬合検査)・治療方針の説明(治療計画の立案)・歯周基本治療:口腔衛生(ブラッシング)指導、口腔清掃・セルフケアに対する動機づけ、スケーリング、ルートプレーニング、暫間固定・診療録の作成) またはメインテナンス(SPT を含む)	2
有床義歯	有床義歯 (治療方法の説明・口腔顔面の写真撮影・概形印象・研究用模型の製作・トレーの製作・レスト座形成・最終印象・咬合床の製作・咬合採得・鑑義歯試適・フェイスボウ・チェックバイト・顆路調整・装着・修理・リライン・粘膜調整・義歯調整・メインテナンス・診療録の作成)	1
CrBr	Cr (治療方法の説明・口腔顔面の写真撮影・概形印象・研究用模型の製作・築造窩洞形成・印象・支台歯形成・プロビジョナルレストレーション・トレーの製作・精密印象・咬合採得・試適・仮着・合着・診療録の作成)	1
	Br (同上・咬合面コア)	
口腔外科	抜歯(手洗い(衛生的・手術的), 減菌手袋の装着, 局所麻酔(表面麻酔, 浸潤麻酔))	1
	合計	10

参加型実習

	項目	症例数*
保存修復治療	コンポジットレジン修復(もしくはグラスアイオノマー修復)	10
	インレー／アンレー修復(合着・接着)	3
	インレー／アンレー修復(窩洞形成・印象)	3
	象牙質知覚過敏処置	3
歯内治療	ラバーダム	10
	髓腔開拓・根管口明示	5
	作業長測定	5
	根管形成・根管貼薬	15
	根管充填	5
歯周治療	歯周組織検査	7
	患者への説明(初診, 治療方針, 治療経過など)	5
	ブラッシング指導	12
	スケーリング	10
	ルートプレーニング	10
	暫間固定	1

	メインテナンス(フッ化物塗布, 歯面研磨, 洗浄)	20
	歯周外科治療	1
	手術後処置(抜糸・洗浄)	1
有床義歯	治療方法の説明	5
	概形印象	5
	最終印象・レスト座形成	5
	咬合採得	5
	蝶型歯試適	5
	フェイスポウ	1
	チェックバイト・頬路調整	1
	咀嚼機能検査	1
	装着	5
	義歯修理	5
	リライン	5
	粘膜調整	5
	義歯調整	30
	顎頬面補綴	1
CrBr	築造窩洞形成・印象・支台築造	10
	支台歯形成・仮封冠	10
	精密印象・咬合採得	10
	試適・咬合面コア・色調採得・前歯部テック調整	3
	仮着・合着	10
顎関節症	顎関節症	1
小児	予防填塞	1
矯正	矯正装置の説明	1
歯科麻酔	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・体温の測定, 意識の評価)	2
総合歯科	医療面接	5
口外	抜歯	4
	小手術	1
口腔内科	頭頸部診察	1
	周術期歯科(外来・病棟・ICU)	2
放射線	口内法撮影	2
	パノラマ撮影	2
	口内法読影	20
	口外法読影(CT 等を含む)	6
インプラント	治療計画の立案	1
	合計	297

* 見学介助は1症例, 自験は2症例とみなす

その他

術前症例(or 治療計画)検討会発表(診断と治療計画の立案)	1
術前症例(or 治療計画)検討会聴講	20
症例報告会発表	1
症例報告会聴講	10
症例報告会(事後抄録)	1
レポート(保存, 歯内, 歯周, CrBr, 有床義歯, その他)	12
週間ポートフォリオ	40
学外実習(予防歯科, 病院歯科, および一般歯科診療所(在宅訪問診療を含む)2施設)	4
障害者歯科実習	2
TMJ 外来実習	1
歯科衛生室実習	1
診療室受付実習	
技工室実習	1 学年の 人数による

【総合評価の方法】

minimum requirement をすべて終了していることが歯科臨床実習修了の要件となる。評価は、診療実習、参加型実習、症例報告についてそれぞれ4段階（1：非常に悪い、2：やや悪い、3：やや良い、4：非常に良い）で行う。

診療実習においては、各実習内容別の「評価チェック票」に基づき、個々の治療ステップでの到達目標について、その到達度を4段階で評価する。これらの評価の平均値を各症例での評価点とする。全ての体験症例の評価点を平均し、診療実習の評価点とする。

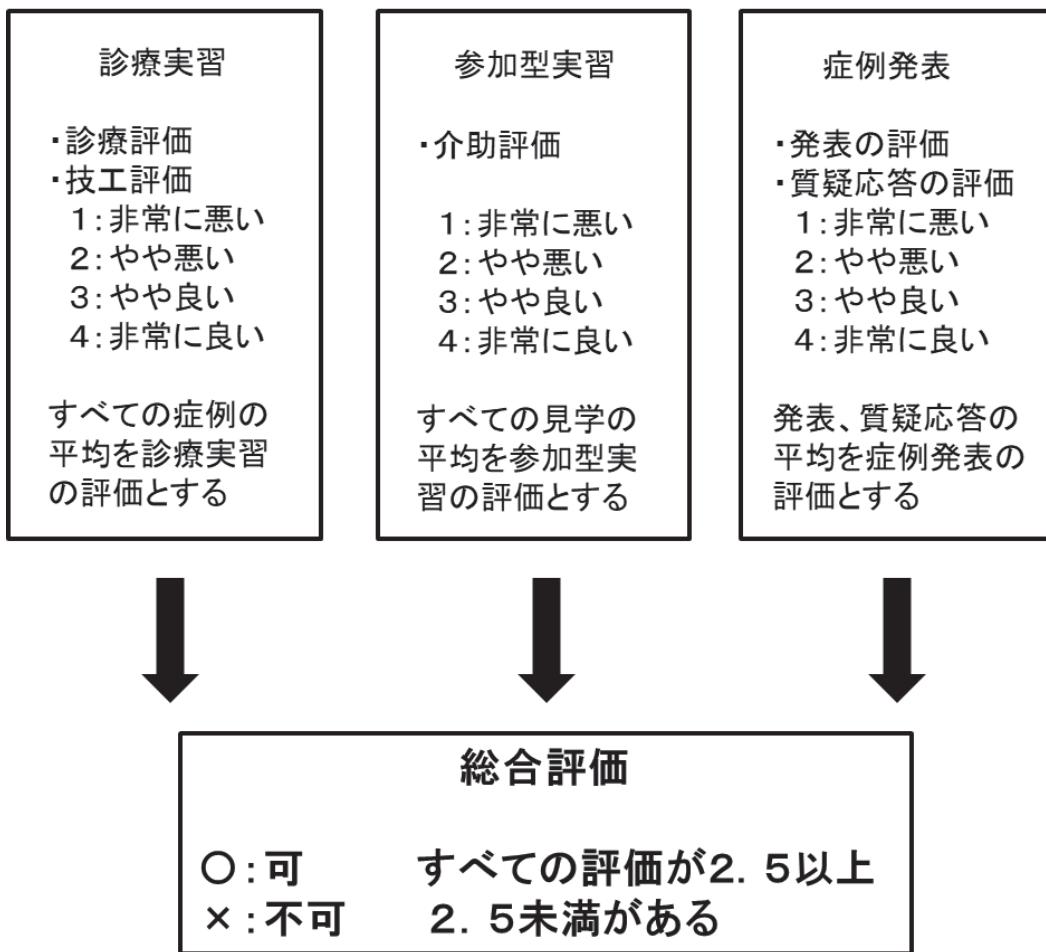
参加型実習においては、一症例毎に学生はレポートを作成する。これを参考にし各実習内容について4段階評価を行う。全ての症例の評価点を平均し、参加型実習の評価点とする。

症例報告においては、「症例報告評価票」に基づき、個々の到達目標について4段階評価を行う。各項目の評価の平均値を評価点とし、症例報告会に参加した全ての教員の評価点の平均を、症例報告の最終的な評価点とする。症例報告会終了後、事後抄録を提出すること。

すべての評価点が2.5以上であれば『可』、2.5未満があれば『不可』とする。

歯科臨床実習の総合成績(80)には、診療実習、参加型実習、症例報告の評価と出席点が反映される。

歯科臨床実習における評価の概要



全部床義歯評価チェック票（診療）

カルテ番号（　　）
 学生（　　）番（　　）
 教員（　　）

1：非常に悪い

2：やや悪い

3：やや良い

4：非常に良い

1. 口腔内診査と概形印象

- | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|
| ① 問診ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 口腔内診査ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 旧義歯の診査ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 既製トレーを選択できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 概形印象採得ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

2. 精密印象

- | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|
| ① 個人トレーの適合を確認できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 個人トレーを調整できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 筋形成ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 印象材をトレーに盛ることができ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 精密印象ができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

3. 咬合採得

- | | | | | |
|-----------------|---|---|---|---|
| ① 仮想咬合平面を決定できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 垂直的顎間関係を決定できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 水平的顎間関係を決定できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 標示線をひくことができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 人工歯を選択できる | 1 | 2 | 3 | 4 |

4. 試適

- | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|
| ① 症歯床形態の確認ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 咬合状態の確認ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 人工歯の排列位置の確認ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 審美性の確認ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 発語機能の確認ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

5. 装着と調整

- | | | | | |
|------------------|---|---|---|---|
| ① 床縁部の調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 研磨面の調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 粘膜面の調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 咬合接触状態の調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 症歯装着時の患者教育ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

6. 診療全般

- | | | | | |
|----------|---|---|---|---|
| ① 診療態度 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 診療室の清掃 | 1 | 2 | 3 | 4 |

全部床義歯評価チェック票（技工）

カルテ番号（

）

1：非常に悪い

学生（　　）番（

）

2：やや悪い

教員（　　）

）

3：やや良い

4：非常に良い

1. 個人トレー製作

- | | | | | |
|---------------------|---|---|---|---|
| ① 研究用模型を作製できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 義歯作製に必要な解剖を理解している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ リリーフ、ブロックアウトができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 個人トレー外形線がかける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 個人トレーを作製できる | 1 | 2 | 3 | 4 |

2. 咬合床製作

- | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|
| ① 印象に石膏を盛ることができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 作業用模型が作製できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ リリーフ、ブロックアウトができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 基礎床を作製できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 蜂堤を作製できる | 1 | 2 | 3 | 4 |

3. 蜂義歯製作

- | | | | | |
|------------------|---|---|---|---|
| ① 模型を咬合器に装着できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 前歯部人工歯が排列できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 臼歯部人工歯が排列できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 歯肉形成ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 中心咬合位で咬合調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

4. 埋没、重合、研磨

- | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|
| ① 埋没ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 填入ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 割り出しができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 咬合調整ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 形態修正、研磨ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |

5. 技工全般

- | | | | | |
|----------|---|---|---|---|
| ① 技工態度 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 技工室の清掃 | 1 | 2 | 3 | 4 |

歯科臨床実習 症例報告 評価票

症例報告日：西暦()年()月()日

報告学生氏名：()番 氏名()

評価者：氏名()

1:非常に悪い 2:やや悪い 3:やや良い 4:非常に良い

1. 症例資料(スライド、プレゼンテーションの評価)

- | | |
|---------------------------------|---------|
| ① 主訴、現病歴、現症、既往歴(患者背景)が正しく示されている | 1 2 3 4 |
| ② 適切な診査結果と、それに基づく診断が正しく示されている | 1 2 3 4 |
| ③ 診断に基づいて立案した治療計画が適切に示されている | 1 2 3 4 |
| ④ 実際の治療の流れが正しく示されている | 1 2 3 4 |
| ⑤ 実際の治療に対する考察が妥当であり、無理なく示されている | 1 2 3 4 |
| ⑥ 相手(聴衆)に自分(発表者)の意図が伝わる工夫・配慮がある | 1 2 3 4 |

(注)適切な医療用語が使用されているかどうかも加味して評価してください。

2. 質疑応答(症例に対する理解度等の評価)

- | | |
|--|---------|
| ① 患者背景、診査・診断、治療計画に関する質問・指摘に対して、
適切に回答・応答できる | 1 2 3 4 |
| ② 治療内容に関する質問・指摘に対して、適切に回答・応答できる | 1 2 3 4 |
| ③ 考察、その他の質問・指摘に対して、適切に回答・応答できる | 1 2 3 4 |
| ④ 回答・応答中の態度、語句、声量等が適切である | 1 2 3 4 |

(注)適切な医療用語を用いて回答・応答されたかどうかも加味して評価してください。

合計(/40)点

*評価者平均が25点以上で合格、25点未満の場合は再報告になります。

*25点未満の場合、特に気付いた点、コメント等を必ずご記載ください。

徳島大学歯学部歯学科 臨床実習 症例報告会（事後抄録）

症例のタイトル

学籍番号	氏名
------	----

患者概要

診査

診断

治療計画

実際の治療内容

考察

年 月 日 作成 (担当ライター：保存系_____，補綴系_____)

徳島大学歯学部歯学科臨床実習 症例報告会（事後抄録）作成の手引き

<作成および提出>

1. 事後抄録は、症例報告会で合格した後、2週間以内に作成し（Word文書）、担当ライターのチェックを受けること。やむを得ず、期限内に作成できない場合は、担当ライターの承認を得ること。
2. 事後抄録の提出をもって、症例報告会の修了を認めるので注意すること。事後抄録は、センター専任教員まで、Word書類を添付ファイルとして電子メールで送り（アドレスは後日伝達する）、併せて2名の担当ライターの押印のある紙媒体（印刷物）を提出して完了とする。

<書式>

1. 事後抄録用テンプレート（Word文書）を活用し、タイトル、学籍番号、氏名、患者概要、診査、診断、治療計画、実際の治療内容、および考察を含み、2000字程度（A4版1ページ）にまとめること。なお、各項目の枠の大きさは自由に変更しても構わない。
2. 患者を特定し得る一切の個人情報は記載しない。
3. 文字の大きさは10.5ポイント（タイトルは12ポイント）で、フォントはMS明朝に統一する。
4. 作成日時は西暦で記入する。

<その他>

1. 作成された事後抄録は電子ファイルとしてPDF化され、当該年度の臨床実習の「総決算」のプロダクトとして保存される。将来的に、第三者の目に触れるこもあり得るので、本抄録の出来映えには十分に留意されることを推奨する。
2. その他、何か不明な点があれば、担当ライターもしくはセンター専任教員に相談し、その指示を仰ぐこと。

欠席届

学籍番号	
氏名	
欠席の年月日	年 月 日
報告（記載）年月日	年 月 日

欠席の理由、その他

マッチング説明会・見学の場所・時刻や交通手段・宿泊の有無(有の場合、宿泊先)、 その他の行動予定を出来る限り詳細に記載すること。

確認欄（自署又は押印）

教務委員長	センター長
年 月 日	年 月 日

※本届出用紙（様式 1）は臨床実習を欠席する場合、必ずすべての項目を記載して確認欄に当該教員の自署又は押印をもらった後、センター専任教員に提出すること。

（原則として、欠席する日の 7 日前までを提出期限とするが、COVID-19 の感染状況の変化により、提出後に予定が変更された場合、速やかにセンター専任教員に連絡すること）

臨床実習欠席に対する長期休暇期間中の代替措置の要望書

統合臨床実習センター長 殿

私は、臨床実習の欠席に対する長期休暇期間中の代替措置を要望しますので、よろしくお取り計らいの程、お願い申し上げます。

学籍番号	
氏名	
欠席の年月日	

欠席の理由、その他

代替措置を要望する理由

長期休暇期間中の 代替措置	諾・否	センター会議日時 年 月 日
------------------	-----	----------------

統合臨床実習センター長 自署もしくは押印

--

----- 切り取らないこと -----

長期休暇期間中の代替措置が認められた後、速やかに代替日時についてセンター専任教員と相談して決定すること。

長期休暇期間中の 代替日時	
------------------	--

センター専任教員 自署もしくは押印（日付も記載する）

日時決定時	出席確認時
-------	-------

*本用紙は、代替措置終了後、センター専任教員に提出すること。提出のない場合は、出席を認めない。

2) ローテイト実習

矯正歯科 臨床実習 Orthodontics (ローテイト実習 (固定実習含む))	5年次 (10月～3月), 6年次 (4月～9月) 月～木曜日 1～6時限目, 金曜日 1～3時限目	矯正歯科診療室
【担当者 (メールアドレス/オフィスアワー/研究室/連絡先電話番号)】		
教授 田中 栄二 (etanaka@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・教授室/633-7356)		
講師 堀内 信也 (horiu@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7460) 日浅 雅博 (mhiasa@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7357)		
助教 渡邊 佳一郎 (nabe@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7460) 岩浅 亮彦 (iwasa.akihiko.1@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7357) 佐藤 博子 (hiroko.s@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7460) 松木 佑太 (yuta.matsuki@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7460) 清水 宗 (shimizu.sou.2@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:30/3F 矯正・第1研究室/633-7460)		

【実習目標と概要】

矯正歯科臨床における診査、診断および治療に関する必要な基礎知識と技術を、診療見学を通じて習得する。

【到達目標】

1. 患者を全人的に捉え、患者中心の立場から適切な診断と顎顔面の包括的な視点に立った治療計画を立案できる。
2. 矯正歯科診療に係わる基本的な診察および必要な検査ができる。
3. 治療経過等の記録や資料から、治療効果を検証できる。
4. 指導医の直接の指導・監督のもとに基本的診療介助することができる。
5. 矯正装置の種類と特徴、および使用目的を理解し、不正咬合の治療に最適な矯正装置を選択できる。

【実習内容および実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 模型および顎態分析	実施、1ケース	水 2-38	F36, 37, G22
2. 成長発育期の口腔・顎顔面の診査	実施、1ケース	水 1-9, 10	F65, G1, 9
3. 診断、治療計画の立案	実施・介助、1ケース	水 1-45, 2-41	F19, 65, G1～4, 22
4. 定期検診時の診察・検査	介助・見学、1ケース	水 1-46, 2-1	F65, G1～4, 9, 10
5. 保定装置の作製	実施、1ケース	水 3-36	F19, G22, 26
6. 抑制矯正治療	介助・見学、1ケース	水 4-39, 40	F19, G22, 26, 27
7. 矯正装置の装着、調整	介助・見学、1ケース	水 3-36	F19, G22, 26
8. 包括的矯正治療	介助・見学、1ケース	水 4-41	F19 G22, 26, 27

【教科書、参考書】

臨床実習マニュアルを配付する。

歯科矯正学（第6版）、医歯薬出版、2019

【成績評価の方法】

実習全日の出席を原則とする。

- 上記実習課題の理解度：60点
- 技工物（平行模型）の完成度の評価：10点
- 技工物（保定装置）の完成度の評価：10点
- 実習態度：20点

合計60点以上を合格とする。

小児歯科臨床実習 Pediatric Dentistry (ローテイト実習)	5年次（10月～3月）月～木 1～6時限 金1～3時限 6年次（4月～9月）月～木 1～6時限 金1～3時限 病院4F（K-ブロック）小児歯科診療室 臨床実習配当表に従い、グループに分かれて実習を行う
---	---

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授 岩崎 智憲
 (iwasaki@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 17:00～18:00／4F 教授室／633-7358)

講 師 長谷川智一
 (hasegawa@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)
 中川 弘
 (nakagawa@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)

助 教 上田 公子
 (kimiko_ueda@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)
 北村 尚正
 (kitamura.takamasa@tokushima-u.ac.jp)／水・木・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)
 赤澤 友基
 (akazawa.yuki@tokushima-u.ac.jp)／月・木・金 17:00～18:00／4F 小児・助講室／633-7359)
 河原林 啓太
 (kawarabayashi.keita@tokushima-u.ac.jp)／月・木・金 17:30～18:30／4F 小児・助講室／633-7359)

【実習目的と概要】

健康児、有病児、障害児を対象とする小児歯科学の臨床に必要な基本的事項の実際を修得する。小児及び保護者のこころの動きを科学的に観察して、理解し、適切に対応することを学習する。小児歯科の特徴である保護者へのインフォームドコンセントの方法を修得する。継続した口腔管理の重要性について認識を高めるため、学内診療室における定期健康診査および齶蝕予防処置について実習する。

【到達目標】

1. 小児を全人的に捉え、一口腔単位としての長期口腔保健管理の視点にたった、小児と保護者中心の立場からの診療計画を立案できる。
2. 小児歯科臨床における診察、検査、診断、予防処置、および治療等に必要な器材を準備できる。
3. 指導医の介助・見学を行うことにより小児および保護者への対応法を理解し、その意味を説明できる。
4. 指導医の直接の指導・監督のもとに小児に対する専門的口腔清掃が実施できる。
5. 指導医の直接の指導・監督のもとに乳歯および幼若永久歯の齶蝕の予防処置が実施できる。
6. 指導医の介助・見学を行うことにより小児、保護者および集団に対する口腔保健指導を理解し、その意味を説明できる。
7. 指導医の介助・見学を行うことにより各種小児歯科治療の術式を理解し、その意味を説明できる。
8. 指導医の介助・見学を行うことにより小児の長期口腔保健管理の方法と効果を理解し、その意味を説明できる
9. 指導医の介助・見学を行うことにより小児の心身の発達および顎・歯列・咬合の発育を理解し、咬合誘導の意味を説明できる。
10. 指導医の介助・見学を行うことにより障がい児の特性を理解し、その内容を説明できる。
11. 指導医の介助・見学を行うことにより齶蝕リスク検査の方法、結果を理解し、その意味を説明できる。
12. 指導医の直接の指導・監督のもとにフッ化物洗口法の方法と効果について、小児および保護者への指導が実施できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 定期的口腔保健管理の方法	介助、10ケース以上	水1-52, 53, 3-32, 4-38	G19～21, 25, 26
2. 口腔内診査・診断	実施、3ケース以上	水1-9, 10	F31, 65 G1～4, 9, 10, 27
3. 治療計画の立案（処方箋および技工指示書の作成を含む）	実施、3ケース以上	水1-45, 46, 48, 49, 50	G1～4, 9, 10, 26
4. 充填処置・歯内療法・乳歯抜歯	実施・介助・見学、15ケース以上	水3-33～35, 37	G11～15, 26～27
5. ブラッシング指導及び専門的口腔清掃	実施、3ケース以上	水1-51～53, 3-38, 水4-38	F64 G19～21, 26, 27
6. フッ化物溶液またはゲルの歯面塗布	実施、3ケース以上	水2-31	F62, G21, 26, 27
7. ラバーダム防湿下での予防填塞	実施、1ケース以上	水1-31, 水2-32	F34, 63, G21, 26

8. スタディーモデルの製作及び模型分析	実施, 2 ケース以上	水1-45, 47, 水2-38, 40, 41	F37, 65, G1
9. 咬合誘導装置の作製	実施, 1 ケース以上	水1-50, 水3-36, 水4-39, 40	F65, G26
10. 齧歫リスク検査	実施, 1 ケース	水2-4	G4, 10, 26
11. フッ化物洗口法の実施指導	実施, 1 ケース	水3-30, 31	G21, 26
12. レポートの作成及び口述試問	実施, 3 ケース以上		

上記のうち, 2, 5, 6, 8, 10, 11, 12 はミニマム・リクワイヤメント, それ以外は努力目標とする。

【実習書, 参考書】

「小児歯科臨床実習帳」を配付する。

臨床予備実習で配付された「小児歯科臨床予備実習および臨床実習の手引き」を実習前に今一度熟読しておく。また, 参考書はできるだけ多くの関連書ならびに専門誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

臨床実習の修了用件: 実習日全出席を原則とする。ミニマム・リクワイヤメントの達成が合格の最低基準である。すなわち, スタディーモデルの製作及び模型分析 2 ケース以上, 学外臨床実習 1 ケース, レポートの作成及び口述試問 3 ケース以上である。

総合評価法: 修了用件および努力目標の必要ケース数のすべてを満たす場合 10 点満点とし, 6 点以上を合格とする。

努力目標の不足ケース数が 3 ケース未満の場合減点 1, 6 ケース未満の場合減点 2, 10 ケース未満の場合減点 3 とする。なお, 臨床実習帳の期日までの提出がない場合や実習中の不適切行動についても減点 1 とする。

また, 必要ケース以上の積極的な実習参加については総合評価に反映し加点する。

歯科（歯科放射線科）臨床実習 Oral and Maxillofacial Radiology	5年次（10月～3月），6年次（4月～9月） 月～木 1～6時限目，金曜日 1～3時限目 歯科放射線科（4F）診療室
--	--

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授

准教授 細木 秀彦

(hidehiko@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:30～17:30／臨床B棟2F放射線・第2研究室／633-7362)

講 師 前田 直樹

(maeda@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:30～17:30／臨床B棟2F放射線・第2研究室／633-7362)

助 教 水頭 英樹

(suito.hideki@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:30～17:30／臨床B棟2F放射線・第3研究室／633-7362)

【実習目的と概要】

歯科臨床に必要な放射線学の知識・技能・態度を、患者実習を通して習得する。

【到達目標】

- 指導医の直接の指導・監督のもとに、エックス線撮影を行い、放射線被曝、放射線防護について説明を行うことができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、口内法およびパノラマエックス線写真撮影の術式を理解し、行うことができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、写真（画像）処理を理解し、良好な画質のエックス線写真を作ることができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、日常の歯科診療の対象となる疾患の診断・治療に必要な口内法およびパノラマエックス線写真撮影法の画像診断（読影）を行うことができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、口外法、特殊撮影の画像診断（読影）ができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、撮影されたエックス線写真を適切に整理および管理することができる。
- 指導医の直接の指導・監督のもとに、エックス線診断における品質保証プログラム（エックス線撮影装置・周辺機器の管理）を実施することができる。

【実習内容、実習方法及び履修ケース目標】

			項目番号	学修目標番号
1. エックス線撮影法に関する説明	説明		水 1-14	F24
2. 口内法エックス線写真読影（正常解剖）	実施	6 ケース	水 1-14	F24
3. 口内法エックス線写真読影（異常像）	実施	20 ケース	水 1-14	F24
4. 口内法エックス線写真撮影	実施	2 ケース	水 1-14	F24, G10
5. パノラマエックス線写真読影（正常解剖）	実施	1 ケース	水 2-3	F25
6. パノラマエックス線写真撮影	実施	2 ケース	水 2-3	F25, G10
7. CT画像等を含む症例の読影	実施	6 ケース	水 1-14, 水 2-3 水 3-3, 水 3-4 水 3-5, 水 4-4 水 4-5, 水 4-6 水 4-7	F24, F25
8. フィルム整理および管理	実施		水 1-14	F24
9. エックス線装置・周辺機器の管理	実施		水 1-14, 水 2-3	F24, F25

【実習書、参考書】

臨床実習帳を配付する。

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日の出席を原則とする。上記の2.～7.のケースを満たしたら合格とする。

歯科口腔外科（歯科麻酔科）臨床実習 Dental Anesthesiology (ローテイト実習)	5年次（10月～3月）6年次（4月～9月） 月～木 1～6 時限目，金 1～3 時限目 手術部（中央診療棟 4F），歯科麻酔科外来（外来棟 4F L ブロック）
<p>【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】</p> <p>教 授 川人 伸次 (kawahito.shinji@tokushima-u.ac.jp)／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床 B 棟 3F 歯科麻酔科教授室／633-7366)</p> <p>准教授 高石 和美 (takaishi.k@tokushima-u.ac.jp)／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床 B 棟 3F 歯科麻酔科医局／633-7367)</p> <p>講 師 江口 覚 (seguchi@tokushima-u.ac.jp)／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床 B 棟 3F 歯科麻酔科医局／633-7367)</p> <p>助 教 藤原 茂樹 (josephluke@tokushima-u.ac.jp)／月・火・水・木・金 17:00～18:00／臨床 B 棟 3F 歯科麻酔科医局／633-7367)</p>	

【実習目的と概要】

歯科治療時における患者の安全性の確保に寄与できるように、全身管理、危機管理についての基礎知識・技術について手術室および外来での麻酔管理症例の見学およびシミュレーターを用いた実習を通して習得する。

【到達目標】

1. バイタルサインを把握し、測定できる。
2. 歯科診療における全身疾患を有する患者の全身管理の基本を説明できる。
3. 亜酸化窒素吸入鎮静法を理解し、説明できる。
4. 静脈内鎮静法を理解し、説明できる。
5. 全身麻酔を理解し、その基礎的事項を説明できる。
6. 周術期管理に必要な臨床検査や生体監視モニターについて理解し、説明できる。
7. 歯科治療時の合併症（偶発症）とその対処法について理解し、説明できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. バイタルサインの把握、測定	実施、4 ケース	水 1-8	F20, 21, G5
2. 全身疾患を有する患者の歯科治療	見学・介助、2 ケース	水 3-11, 37, 4-1, 44, 45, 46 F66, 67, G5, 24, 25	
3. 亜酸化窒素吸入鎮静法および静脈内鎮静法	見学・介助、2 ケース	水 3-10, 11, 37, 4-1, 42	F20, 21, 30, 69
4. 全身麻酔	見学・介助、2 ケース	水 3-11, 37, 4-1, 25, 42	F20, 21, 30
5. 臨床検査、生体監視モニター	見学・介助、2 ケース	水 4-8, 9, 10, 11, 13, 14, 15, 16, 17	30, G5
6. 歯科治療時の合併症（偶発症）と対処法	見学・介助、1 ケース	水 3-11, 4-3	F20, 21, 30, G6

【実習書、参考書】

臨床実習張を配付する。

参考書：歯科麻酔学 第8版、医歯薬出版、2019

臨床歯科麻酔学 第6版、永末書店、2021

ミラー麻酔科学 第6版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2007

【成績評価の方法】

1. 実習日5日間の出席を必須とする。もし欠席をした場合には、原則として予備日を設け実習を行うものとする。
2. 実習態度や実習内容の到達度により評価を行い、6割以上であること。
3. 実習終了後に課題レポートを提出し口頭試問を受ける。10点満点で評価を行い、6点以上であること。
 1, 2および3を満たすことを臨床実習の修了要件とする。

総合歯科診療部 臨床実習
(ローテイト実習)

5年次(10月～3月), 6年次(4月～9月)
月・火・水・木曜日 1, 2, 3, 4, 5, 6 時限目
金曜日 1, 2, 3 時限目
4F 総合歯科診療部診療室

【担当者(メールアドレス/オフィスアワー/研究室/連絡先電話番号)】

教 授

講 師 岡 謙次

(koka@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:00/3F 総合歯科・第2研究室/633-9181)

安陪 晋

(susumu.abe@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:00/3F 総合歯科・第3研究室/633-9181)

助 教 大川 敏永

(toshi.oh@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:00/3F 総合歯科・第3研究室/633-9181)

美原 智恵

(chie@tokushima-u.ac.jp/月～金 17:00～18:00/3F 総合歯科・第2研究室/633-9181)

オフィスアワーに不在の場合もあるため、診療室で訪問時間を相談してください。

【実習目的と概要】

徳島大学病院の初診患者の医療面接を通して、良好な患者ー歯科医師関係を築くために必要な医療面接の基本的な態度、知識および技能を習得する。

【到達目標】

1. 医療面接の役割を説明する。
2. 主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考え方や知慮に対する希望を把握する。
3. 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
4. 患者の不安や表情・行動の変化に適切に対応する。
5. 患者に診断結果と治療方針を適切に説明する。
6. 必要に応じて、専門外来への適切な紹介の手続きを行う。
7. 口腔内診査を適切に行う。
8. 診療録を適切に記載する。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 医療面接	実施	水1-7, 2-2, 3-2, 4-2	F5, G8, 25, 26
2. 口腔内診査	実施	水1-9～13	G5, 9
3. 必要な検査の選択	実施	水1-14～17, 19, 20	G10
4. 診療録の記載	介助	水1-4, 48	F4, G3
5. 訪問歯科診療	見学・介助	水3-40, 4-43～46	F68, G22～24

【実習書、参考書】

臨床実習マニュアルを配付する。

参考書：できる研修医の条件 臨床研修をはじめる前に 永末書店

でんたるこみゅにけーしょん 一歯科医療面接総論一 山田隆文 学建書院

外来でのコミュニケーション技法 飯島克巳 日本医事新報社

参考書はできるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

修了要件

- ① 所定の出席回数を満たしていること
- ② 医療面接を「5例以上」、印象採得の見学を「20例以上」実施していること
- ③ 毎回のポートフォリオを提出すること

総合評価

ポートフォリオの評価 5段階で4以上を合格とする

口腔インプラントセンター Oral Implant Center	5年次後期 月・火・水・木曜日 1～6 時限目 6年次前期 月・火・水・木曜日 1～6 時限目
歯科診療室	
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	
準教授 友竹 健則 (tomotake.dent@tokushima-u.ac.jp／火・水・木・金 17:30～18:00／ 3F 口腔インプラントセンター研究室／633-7970)	
助 教 川野 弘道 (h-kawano0321@tokushima-u.ac.jp／火・水・木・金 17:00～18:00／ 3F 口腔インプラントセンター研究室／633-7970)	
西川 泰史 (nishikawa.yasufumi@tokushima-u.ac.jp／火・水・木・金 17:00～18:00／ 3F 口腔インプラントセンター研究室／633-7970)	

【実習目的と概要】

口腔インプラント治療における術前診察、検査、治療およびメインテナンスに関する必要な基礎知識と診療方法を診療見学および介助を通じて修得する。

【学習目標】

1. 医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。
2. 全身状態を評価し、顎顔面および口腔内の診察ができる。
3. 診断ならびに治療に必要な画像検査および臨床検査を選択し、実施できる。
4. 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後が推測できる。
5. 診断ならびに治療方針・治療計画を患者に分りやすく説明できる。
6. 主観的所見、客観的所見、評価、計画<SOAP>による診療録記録および指示書を作成できる。
7. 患者の訴え、または指導医からの指示事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。
8. 歯の欠損に対する補綴治療ができる。
9. 口腔衛生指導を実施できる。
10. 歯科疾患を予防するための処置ができる。
11. 多職種連携（歯科衛生士、歯科技工士）によるチーム医療を経験する。
12. 根拠に基づいた医療<EBM>、narrative-based medicine<NBM>に基づいた患者中心の医療を実践する。

【実習内容】

		項目番号	学修目標番号
1. 術前プロトコル作成の介助	介助	水 1-7, 1-10, 2-2	G8～10
2. 概略の治療方針・設計の作成	実施	水 1-1, 2-1	G1～4, 26
3. 診療介助・見学	介助・見学	水 4-34	G18, 25
4. メインテナンス処置	介助・実施	水 1-35, 1-38, 1-41	G19, 20, 25

【実習書、参考書】

よくわかる口腔インプラント学（第3版）、医歯薬出版、2017
 口腔インプラント治療指針2020、医歯薬出版、2020 ((公社)日本口腔インプラント学会ホームページ内)
 口腔インプラント学学術用語集、医歯薬出版、2020 ((公社)日本口腔インプラント学会ホームページ内)
 参考書はできるだけ多くの関連書ならびに専門書を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

予め決められた実習日に出席し、実習態度や実習の到達度などから総合的に評定する。

口腔管理センター（周術期） Oral management center (Perioperative) (ローテイト実習)	5年次後期 曜日不定 1～6 時限目 6年次前期 曜日不定 1～6 時限目 4F 口腔管理センター
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	
准教授 青田 桂子 (aota.keiko@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 1／633-7352)	
特任助教 高野 栄之 (takano@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 2／633-7352)	
助教 浪花 耕平 (naniwa.kouhei@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～18:00／臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 2／633-7352)	

【実習目的と概要】

医科歯科連携の重要項目である周術期等口腔機能管理の概要を理解し、原疾患・治療法・口腔内状況を総合的に考慮し、患者一人ひとりに合った口腔機能管理計画の立案法を習得する。

【到達目標】

- 周術期等口腔機能管理の目的、流れについて理解し説明できる。
- 全身麻酔手術を受ける患者に対し、患者の特性に合った口腔機能管理計画を立案できる。
- 化学・放射線療法を受ける患者に対し、患者の特性に合った口腔機能管理計画を立案できる。
- 多職種（医師、看護師等）との連携を経験し、チーム医療の重要性を理解できる。

【実習内容】

		項目番号	学修目標番号
1. 口腔機能管理の必要性について患者説明	見学・介助	水 3-11, 4-46	F7
2. 口腔内診査・歯周基本検査・エックス線検査	実施・介助	水 1-10, 1-33	G9, G10
3. 周術期等口腔機能管理計画の策定・患者説明	見学・介助	水 1-1, 1-43, 1-44	G2, G26
4. 病診連携（診療情報提供書の作成）	見学・介助	水 3-1, 1-54, 4-45	G24

【実習書、参考書】

- 臓器別がん標準治療に即した周術期口腔機能管理、医歯薬出版、2021 年
- 周術期等口腔機能管理の実際がよくわかる本、クインテッセンス出版、2020 年
- 続 5 疾病の口腔ケア プロフェッショナルな実践のための Q&A55、医歯薬出版、2015 年

【成績評価の方法】

実習日の出席を原則とし、実習態度や実習の到達度から総合的に判断する。

顎関節症外来 臨床実習

Clinic for Temporomandibular Disorders

5年次後期 月・火・水・木・金曜日 1～3時限目
6年次前期 月・火・水・木・金曜日 1～3時限目
顎関節症外来

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

- 教授 松香 芳三
(matsuka@tokushima-u.ac.jp／月～水、金 16:00～18:00／3F 顎機能咬合再建学・教授室／633-7350)
- 教授 田中 栄二
(etanaka@tokushima-u.ac.jp／月火木金 17:00～18:00／3F 口腔顔面矯正学・教授室／633-7356)
- 講師 安陪 晋
(susumu.abe@tokushima-u.ac.jp／月火木金 17:00～18:00／3F 総合診療歯科学・第3研究室／633-9181)
- 講師 鈴木 善貴
(yosuzuki@tokushima-u.ac.jp／月水金 16:00～18:00／3F 顎機能咬合再建学・研究室／633-7350)
- 助教 生田目 大介
(c000030613@tokushima-u.ac.jp／月～水 16:00～18:00／3F 顎機能咬合再建学・研究室／633-7350)
- 助教 武川 恵美
(uyamanikofu@tokushima-u.ac.jp／火金 16:00～17:00／5F 生体材料工学・研究室／633-9125)

【実習目的と概要】

口腔顔面痛の診断、治療の概要を理解することを目的とする。実習は、指導医の介助・見学とする。

【到達目標】

1. 口腔顔面痛の病態分類について理解し、説明することができる。
2. 口腔顔面痛患者に対し、適切に医療面接を行うことができる。
3. 口腔顔面痛診断に必要な各種検査法について理解し、説明することができる。
4. 正確な診査を実施することができる。
5. 口腔顔面痛治療の概要を理解し、説明することができる。

【実習内容（実施）】

		項目番号	学修目標番号
1. 診療介助・見学	介助・見学	水 4-35	G3
2. 各種検査法説明	説明	水 4-35	G3
3. 診断用プロトコール作成	実施（学生相互）、1 ケース	水 4-35	G3

※履修ケース目標数は別途作成した臨床実習検印帳に定める。

障礙者歯科外来 臨床実習
Clinic of the Special Needs Dentistry

5年次（10月～3月）、6年次（4月～9月）
水・木曜日 4, 5, 6 時限目
新外来棟 4F K-4 (障礙者歯科外来診療室)

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

講 師 中川 弘
(nakagawa@tokushima-u.ac.jp) / 水・木・金 17:30～18:30 / 4F 小児・助講室 / 633-7359)

【実習目的と概要】

歯科医療の立場から障害者の社会生活や日常生活を支援し、社会福祉の向上に寄与できることを目的に、障害者へ歯科医療を提供するために必要な基礎知識・技術を修得する。

【到達目標】

1. 様々な障害者（視覚障害、聴覚障害、自閉症、ダウン症等）の特徴を理解し、説明できる。
2. 障害別の対応や注意点（点字、手話、車いすからの移乗等）について理解し、実施できる。
3. 障害者の口腔の健康の維持管理の重要性を理解し、実施できる。
4. 障害者の歯科治療別に診療補助および診療上の注意点について説明できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1.	障害者の特徴と対応法の説明	説明・実施	水 3-39 F67
2.	障害者の口腔保健指導	実施・介助	水 3-38 F67
3.	障害者の口腔診査	見学・介助	水 3-37 F67
4.	障害者歯科治療の見学・介助	見学・介助	水 3-37 F67
5.	障害者の車いすからの移乗	実施・介助	水 3-37 F67

【実習書、参考書】

臨床実習検印帳およびプリントを配布する。

参考書は、できるだけ多くの関連書を参考にすると良い。

【成績評価の方法】

実習日（午後半日：水 or 木）2回の出席を原則とする。実習態度や実習の到達度などから総合的に評定する。

歯科衛生室 臨床実習
Dental Hygiene Section

5年次後期 曜日不定 1～6 時限目
6年次前期 曜日不定 1～6 時限目
4 F 歯科衛生室診療室

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授 日野出 大輔（口腔保健学科）
(hinode@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:00／6F 口腔保健衛生学分野 教授室／633-7543)

教 授 片岡 宏介（口腔保健学科）
(kataoka-k@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:00／6F 口腔保健福祉学分野 教授室／633-7384)

講 師 福井 誠（口腔保健学科）
(fmakoto@tokushima-u.ac.jp／月～金 17:00～18:00／6F 口腔保健学科 第6研究室／633-7898
(PHS:070-6586-0471 PHS 内線:89-0471)

【実習目的と概要】

歯周病のメンテナンスを基本とした口腔健康管理の概要（理念や手法）を理解することを目的とする。

実習では初診患者に対する定期的口腔健康管理の導入と、メンテナンス患者に対する予防歯科臨床の実際を見学、介助することが基本となる。

【到達目標】

1. 口腔健康管理におけるセルフケアとプロフェッショナルケアについて説明できる。
2. 歯周病のメンテナンスを基本とした予防歯科臨床の流れを説明できる。
3. 歯科保健指導を行うための基本的知識を理解し説明することができる。
4. 歯科医師と歯科衛生士の連携について説明できる。
5. 口臭検査について説明できる。

【実習内容】

		項目番号	学修目標番号
1. 外来診療見学	見学, 介助	水 1-42, 43, 44	G1, G2, G19, G25
2. 歯周組織検査結果の説明	説明	水 1-19	G2
3. 口臭検査	見学	水 4-20	F1

※到達目標の達成度については、後日提出されたレポートをもって担当教員が評価

3) 固定実習

歯科口腔外科（口腔内科）臨床実習 Oral and Maxillofacial Surgery (Oral Medicine) (固定実習)	5年次（10月～3月），6年次（4月～9月） 月～木曜日 1～6時限目，金曜日 1～3時限目 4F 歯科口腔外科外来診療室， 中央診療棟 4F 中央診療棟手術室，西病棟 9F
【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】	

教 授

准教授 青田 桂子
(aota.keiko@dent.tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:00～18:00 / 臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 1 / 633-7352)
講 師 桃田 幸弘
(momota@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:00～18:00 / 臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 1 / 633-7352)
助 教 可児 耕一
(kani.koichi.1@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:00～18:00 / 臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 1 / 633-7352)
浪花 耕平
(naniwa.kouhei@tokushima-u.ac.jp) / 月～金 16:00～18:00 / 臨床 B 棟 4F 口腔内科・医局 2 / 633-7352)

【実習目的と概要】

歯科口腔外科疾患のなかで、特に口腔内科疾患を有する患者の診療および処置を口腔内科外来、病棟において見学・介助することにより、その疾患の基本的概念を理解するとともに、診断および治療法を習得する。

【到達目標】

1. 口腔内科外来初診患者において、正確かつ必要十分な医療面接ができる。
2. 口腔内科疾患における基本的な臨床所見を把握し、診断に必要な検査を理解するとともに治療計画の立案できる。
3. 診察、検査で得られた所見を整理して診療記録（診療情報提供書を含む）に正しく記載できる。
4. 画像検査、機能系検査（唾液分泌検査を含む）、血液検査、生化学検査、微生物学検査等に関する基礎的事項を解釈し、診断できる。
5. 口腔内科臨床において、消毒・滅菌方法を通して、清潔・不潔の概念を理解できる。
6. 口腔内科診療において、患者に対するインフォームドコンセントを理解できる。
7. 口腔内科処置で用いる器具、機材を理解し、正しい使用法を習得できる。
8. 外来あるいは手術室での処置を理解できる。
9. 指導医の直接の指導・監督のもとに基本的診療行為（頭頸部診察を含む）ができる。
10. 入院患者の管理を理解できる。

【実習内容、実習方法及び履修ケース目標】

		項目番号	学修目標番号
1. 抜歯-動搖歯、残根歯など簡単なもの	実施、1ケース	水 1-27	F60, 61, G12
2. 抜歯-難抜歯、埋伏歯など	介助、見学	水 3-12, 13	G13
3. 口腔内消炎処置（小膿瘍切開）	実施、1ケース	水 2-9	F61
4. 抜歯後の洗浄・消毒・拔糸	実施	水 2-10, 11	G4
5. 外来診療見学	見学、介助	水 1-27 水 2-9, 10, 11 水 3-7, 12, 13	F28, 60, 61 G4, 12, 13
6. 外来処置（生検、囊胞摘出、口腔ケア等を含む）見学、介助		水 3-13	G13
7. 外来初診患者の医療面接	実施	水 1-9 水 3-1	F22
8. 病棟回診に参加	見学	水 4-27	G25
9. 手術室における処置見学	見学、介助	水 4-27	G25
10. 病棟における処置見学	見学、介助	水 4-27	G25
11. 集中治療室における処置（口腔ケア）	見学、介助	水 4-46	G25

【実習書、参考書】

臨床実習マニュアル、ステップ帳を配付する。

参考書として、できるだけ多くの関連書ならびに雑誌を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

予め決められた実習日に出席し、所定の実習項目（診察・処置の自験・介助または見学）を修め、さらに課題レポートを提出する）に加えて、口腔内・外診察を実施し、別に定める評価基準に基づいて判定する。

歯科口腔外科（口腔外科）臨床実習
Oral and Maxillofacial Surgery and Oncology
(固定実習)

5年次（10月～3月）、6年次（4月～9月）
月・火・水・木曜日 1, 2, 3, 4, 5, 6 時限目
金曜日 1, 2, 3 時限目
4F 口腔外科診療室、中央診療棟手術室、西病棟 9F

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教授 宮本 洋二
(miyamoto@tokushima-u.ac.jp)／水・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・教授室／633-7353)
講師 高橋 章
(atakahashi-dent@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
栗尾 奈愛
(kurio.naito@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
工藤 景子
(kkudoh@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
高丸 菜都美
(takamaru@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・助講室／633-7354)
助教 工藤 隆治
(kudoh@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
山村 佳子
(yamamura.yoshiko@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
福田 直志
(naoyukifukuda@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
上杉 篤史
(uesugi.atsushi@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
秋田 和也
(akita.kazuya@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)
鎌田 久美子
(kamakama@tokushima-u.ac.jp)／月・木 17:30～18:30／4F 口腔外科・研究室／633-7354)

【実習目的と概要】

口腔外科外来、病棟および手術室において診療を見学・介助することにより、口腔外科疾患の診断法、治療法、手術式、周術期の患者管理を修得する。

【到達目標】

1. 外来初診患者に対して、適切な医療面接ができる。
2. 口腔外科疾患の典型的な臨床所見を把握し、診断に必要な検査を理解するとともに治療計画の立案方法を学習する。
3. 診察、検査で得られた所見を整理して診療記録に正しく記載できる。
4. 画像検査、血液検査、尿検査、肺機能検査、心電図、微生物学検査等に関する基礎的事項を解釈し、診断を行うことができる。
5. 消毒・滅菌および清潔・不潔の概念を理解する。
6. 患者に対するインフォームドコンセントを理解する。
7. 口腔外科手術で用いる器具、機材を理解し、正しい使用法を修得する。
8. 外来および手術室での手術における麻酔法、手術術式を理解する。
9. 指導医の直接の指導・監督のもとに、拔歯および小手術における一連の診療行為（消毒、局所麻酔、切開、拔歯、搔爬、縫合、投薬、術後処置）を行うことができる。
10. 入院患者における術前・術中・術後の管理を理解できる。

【実習内容、実習方法及び履修ケース目標】

		項目番号	学修目標番号
1.	拔歯-動搖歯、残根歯など簡単なもの	実施あるいは介助 水 1-24, 27	G12, G26, G27
2.	軟組織の小手術	見学あるいは介助 水 1-24, 2-9	G13, G26, G27
3.	基本的な切開・縫合・拔糸など	見学あるいは介助 水 2-10, 11	G11, G26
4.	外来診療見学	見学あるいは介助 水 1-2, 3-6, 4-2～14, 16, 23, 24	G1～5, G26
5.	外来歯科小手術(生検、嚢胞摘出等)	見学あるいは介助 水 1-24, 3-12, 13	G26, G27
6.	外来初診患者の医療面接	実施あるいは見学 水 1-7～13	G8～10, G26, G27

	項目番号	学修目標番号
7. 病棟回診に参加	見学 水 4-25～27, 46	G24～26
8. 手術室における手術見学	見学あるいは介助 水 1-21～23, 4-25, 27	G5, G26
9. 病棟における診療の見学	見学あるいは介助 水 1-2, 4-26	G9, G10, G26

【実習書、参考書】

臨床実習帳を配付する。

【成績評価の方法】

次の課題を出す。

1. 抜歯・小手術症例
2. 手術症例
3. 短期入院症例
4. 長期入院症例
5. 課題レポート

固定実習期間の出席を原則とする。さらに上記課題1-5のそれぞれに対して口頭試問およびレポートの提出を行い、それらを評価するとともに、実習態度や到達度などから総合的に評価を行う。

4) 学外臨床実習

歯科・予防歯科 学外臨床実習
Preventive Dentistry

5年次（1月～3月）、6年次（4月～7月）
第2・第4火曜日の歯科臨床実習該当日 13:00-16:00

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教授 伊藤 博夫
(itohiro@tokushima-u.ac.jp)／月・水・金 16:00～17:00／5F 予防歯学・教授室／633-7336)
准教授 玉木 直文
(tamanaof@tokushima-u.ac.jp)／月～金 16:00～17:00／5F 予防歯学・第1研究室／633-7337)
講師 福井 誠
(fmakoto@tokushima-u.ac.jp)／月～金 17:00～18:00／6F 口腔保健学科・第6研究室／633-7898 PHS: 89-0471)
助教 三木 かなめ
(mikikaname@tokushima-u.ac.jp)／月～木 16:00～17:00／5F 予防歯学・第1研究室／633-7337)

【学外臨床実習施設】

[REDACTED]

[REDACTED]

【実習目的と概要】

要介護高齢者の口腔内の状態を観察し、口腔健康管理の重要性を理解する。また、要介護高齢者に対する基本的な口腔ケアについて理解し、その手順を習得する。

【到達目標】

1. 高齢者の身体的、精神的、心理的特徴を説明できる。
2. 高齢者に多くみられる疾患・服用している薬物を説明できる。
3. 口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。
4. 高齢者における口腔管理の用具と処置について説明できる。
5. 地域医療・地域保健（訪問診療、地域包括ケアシステム）を理解し、体験する。
6. 指導医の指導・監督のもとに要介護高齢者への口腔ケアを実施できる。

【実習内容及び実習方法】

		項目番号	学修目標番号
1. 高齢者の口腔診査	実施・介助	水2-2	G8, G9
2. 高齢者の口腔ケア	実施・介助	水2-42, 水3-38	G19, G20, G23
3. 介護老人福祉施設の見学	見学	水4-44, 水4-46	G25

【実習書、参考書】

歯科・予防歯科 学外臨床実習 実習帳を配付する。

参考書

- 「口腔ケアガイドブック」下山和弘ら編、日本老年歯科医学会監修、口腔保健協会(2008)
「解説口腔ケアと摂食・嚥下リハビリテーション：基本から実践まで」 安井利一ら編、口腔保健協会 (2009)
「歯科医師・歯科衛生士のための専門的な口腔ケア—超高齢社会で求められる全身と口腔への視点・知識」
角 保徳 (著) 医歯薬出版 (2012)
「新編 5 分でできる口腔ケア：介護のための普及型口腔ケアシステム」 角 保徳 (著) 医歯薬出版 (2012)
などの他、多くの関連書ならびに雑誌記事等を参考にするとよい。

【成績評価の方法】

実習日1日以上の参加を原則とする。事情により、本実習に参加できない者は別に課題を用意する。

成績は実習態度やレポート、口頭試問などにより総合的に評定する。

歯科・そしやく科（第一補綴科）学外臨床実習
Removable Prosthodontics

5年次後期、6年次前期 ※日程は後日調整
川島病院 歯科

【担当者（メールアドレス／オフィスアワー／研究室／連絡先電話番号）】

教 授 市川 哲雄
(ichi@tokushima-u.ac.jp)／月～木 17:00～18:00 (その他要相談) ／3F 1 補綴・教授室／633-7346)

【実習目的と概要】

高齢者（要介護高齢者）および心因性疾患をもつ患者の、身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

【到達目標】

1. 老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
2. 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
3. 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
4. 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
5. 高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
6. 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。
7. 摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

【実習内容及び実習方法】

1. 患者（要介護高齢者）に接する態度についての説明
2. 摂食・嚥下リハビリテーションに対する説明
3. 要介護高齢者の歯科診療の介助、見学

見学 1 ケース

項目番号	学修目標番号
水 3-2	G8, G27
水 3-29	F66, F67
水 3-37	F66, F67

【実習書、参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法】

実習態度、見学レポートなどから総合的に評定する。

学外臨床実習
歯科診療所

6年次（7月～9月）

【担当者】

臨床教授 または 臨床准教授

【実習目的と概要】

地域に密着した歯科診療所（一般歯科医院）において、どのような診療が行われているかを体得することを目的とする。臨床教授等の監督・指導により、徳島大学病院歯科部門と協定した実習協力機関にて行う。

【到達目標】

1. 歯科診療所における総合的治療を把握する。
2. 歯科診療所における患者の受付から帰宅までの流れを把握する。

【実習内容及び実習方法】

1. 歯科診療所における歯科診療見学

介助・見学

項目番号

学修目標番号

水 1-54

F68

水 2-43

G23, 24, 25

水 3-40

水 4-45, 46

【成績評価の方法】

実習日の出席を原則とする。学外臨床実習評価表に基づき総合的に評定する。

【備考】

担当者および実習等協力機関は、おって通知する。

<徳島大学歯学部>学外臨床実習評価表

授業科目：臨床実習（学外臨床実習）

評価者：臨床講師（ ）

実習日：令和 年 月 日

学生氏名	
------	--

● 下記の評価項目に該当するものに を入れてください。

評 価 項 目	集合時間を守っていましたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	スタッフの方々への挨拶ができていましたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	言葉遣いは適切でしたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	身だしなみについて 清潔な白衣を着用していましたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	身だしなみについて 実習にふさわしい髪型でしたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	身だしなみについて 名札をつけていましたか	<input type="checkbox"/> 問題無かった	<input type="checkbox"/> 問題あり	
	患者さんへの対応(挨拶など)ができていましたか	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 問題あり
	見学・介助の態度は適切でしたか	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 問題あり
	意欲的に取り組んでいましたか	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 問題あり
	施設の課題はできましたか	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 問題あり
	積極的に質問していましたか	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 問題あり

● 上記の項目を総合的に評価してください。該当評価に○を付けてください。

【 総合評価 】 4. 非常に良い 3. 良い 2. 問題あり 1. 医療人として認めない
※ 「2. 問題あり」と「1. 医療人として認めない」の評価をされた場合は備考欄に理由をご記入ください。
【 備 考 】

※総合評価が「2. 問題あり」かつ評価項目で「問題あり」が4つ以上ある場合、
あるいは総合評価で「1. 医療人として認めない」の場合は不合格。

■実習施設2カ所とも不合格→再履修

■実習施設1カ所で不合格→当該施設にて再実習